

CL Firmware 主なアップデート内容

V5.81

V5.81 の変更点

- ・ 内蔵スイッチの新規部品に対応しました。この部品が搭載されているハードウェアはシリアル番号ラベルの型番の横に"A"が刻印されており、V5.81 より前のバージョンにダウングレードできません。

V5.81 で修正された不具合

- ・ Dante モジュール Brooklyn3 を内蔵している R シリーズの Dante Latency 設定を CL 本体から変更できない不具合を修正しました。各製品で使用している Dante モジュールは、Dante Controller からご確認いただけます。
- ・ CL/QL シリーズ V5.80 において、古いバージョンで保存したコンソールファイル(.CLF)をロードすると、ロード中のディスプレイ下部に"Parameter out of range"と表示され、データの一部が読み込まれないことがある不具合を修正しました。
- ・ Shure AXT400 が ONLINE DEVICE LIST に表示されない不具合を修正しました。
- ・ ネットワークの状況により、システム起動時に Dante モジュールが稀に動作しないことがある不具合を修正しました。

V5.80 の新機能

- ・ AFC Image のコントロールに対応し、オブジェクト操作やシーンリコールの連携ができるようになりました。
- ・ Shure 製品(QLX-D、ULX-D、AXT Digital)の最新のバリエーションおよび帯域に対応しました。

V5.80 の改善点

- ・ 遅延量の多いネットワークでも CL/QL Editor の接続が確立できるように改善しました。

V5.80 で修正された不具合

- CL/QL コンソールと DHCP サーバーを再起動したときに、ごくまれに他の TCP 通信に Dante モジュールが影響を与える不具合を修正しました。
- Rio3224-D2、Rio1608-D2 をマウント時、リモートコントロール状態が SYNCHRONIZING から CONTROLLABLE に変わらないことがある不具合を修正しました。

既知の不具合

- V5.80 以降で Dante Domain Manager のドメインに参加したことがあり、V5.70 以前にダウングレードした場合、Dante モジュールが正常に動作せず設定が変更できなくなることがあります。
その場合は、Dante Domain Manager のドメインに参加させてから再起動してください。
または、Dante 設定を含めて本体を初期化(*)してください。
(*)CL シリーズの場合は[STORE]キーと[INC]キーを、QL シリーズの場合はマスターセクションの A と B の[SEL]キーを同時に押しながら電源を入れて初期化します。
- CL StageMix V8.1.1 において下記の既知の不具合が見つかりました。
 - Master バンク表示時に Stereo/Mono のレベルメーターが正常に動作している状態からナビゲーション/メーターブリッジにて別のバンクを選択した後再び Master バンクを表示すると Master バンク内のレベルメーターが消灯します。アプリケーションの再起動、または SETUP からメーターポイントを一旦変更すると復帰します。
 - StageMix の入力ポートのパッチ設定画面のオプション設定で“DANTE NAMES TO CHANNELS”を実行後、コンソール本体側からシーンリコールを実行すると、アプリケーションが強制終了する場合があります。その場合はアプリケーションを再起動してください。
- 予期せぬエラーが発生時に「kernel sysdwn」のメッセージが表示され操作が出来ない症状に陥ることがあります。
この状態に陥った場合機器の再起動が必要となり、再起動後 Dante(*)の設定を含む全てのデータが初期化されるため、適時データのバックアップをお願いいたします。
(*)Dante が初期化された場合デイジーチェインモードになります。リダンダント接続環境では Dante ネットワークケーブルを取り外した後に Dante の設定を再度実施してください。
- DDM(Dante Domain Manager)に参加しているデバイスが、まれに DEVICE MOUNT 画面で VIRTUAL の表示のままになることがあります。その場合は REFRESH ボタンを押して下さい。
- Dante Controller で CL シリーズに DVS(Dante Virtual Soundcard)をパッチしている状態で CL シリーズを再起動してもパッチが再現されないことがあります。その場合は Dante Controller で DVS を再度パッチしてください。なお、Windows 版の 3.2.0 より前の DVS では、41CH 以降のパッチが CL シリーズからできません。

- V1.15 までのバージョンで作成されたファイルをロードすると、接続していた R シリーズ以外の Dante 機器のマウント情報を引き継ぎません。DANTE INPUT PATCH LIBRARY をリコールしても同様です。必要に応じて V1.51 以降でマウントやパッチ、DANTE INPUT PATCH Library を設定しなおしてください。

お知らせ

- CL/QL/RIVAGE PM コンソール、R Remote から下記の各機器をリモートコントロールすることができます。同時に各機器をリモートコントロールできる CL/QL/RIVAGE PM コンソール、R Remote の台数は次のとおりです。
 - RMio64-D/RSio64-D/Tio1608-D(V1.04 以降): 最大 4 台の CL/QL、あるいは 6 台の R Remote
 - Rio/Ri/Ro/Rio3224-D2/Rio1608-D2: 最大 4 台の CL/QL/RIVAGE PM+別途 6 台の R Remote
- MonitorMix などの外部コントローラーは最大 10 台まで接続できます。
- Dante Controller でレイテンシーを設定する場合は、送信機器と受信機器で大きい(遅い)方の設定が有効になります。
- コンソールなどから SUPPORTED DEVICE として認識できるようにするためにはデバイスラベルの先頭に Y###-(###は0～F までの 16 進数)という五文字の識別番号が必要です。
 - ヤマハ製 Dante 対応機器ではデバイス ID などを参照して自動的に付与されます。(AIC128-D など一部製品では手動設定が必要です。)
 - Dante-MY16-AUD2 を含む Dante 対応サードパーティ製品では手動で設定する必要があります。
 - Shure 社製ワイヤレスレシーバーについてはセットアップガイドを確認のうえ設定してください。
 - デバイ斯拉ベルの制限
 - Y###-*****
 - # は 0 ~ 9、A ~ F(大文字)の 16 進数 3 桁(000 ~ FFF)
 - * は任意の文字(英字(大文字または小文字)、数字、-(ハイフン)が使用可)
 - Y を含めて 31 文字まで対応しています。
 - R シリーズについては Y###-で示される ID が大きさの違う R シリーズ間でも重複しないようにしてください。
- カスタムフェーダーバンクの設定は、ユーザー設定に含まれているだけでなく、V2.0 からシーンデータにも含まれています。ログインしているユーザーや、読み込んだデータのタイプやバージョンによって、呼び出されるカスタムフェーダーバンク設定が異なりますので、以下の点にご注意ください。
 - ALL タイプのコンソールデータを Administrator でロードすると、セーブされていた Administrator のカスタムフェーダーバンク設定が呼び出されます。Guest や他のユーザーで

ALL データをロードすると、セーブされていたカレントシーンのカスタムフェーダーバンク設定が呼び出されます。

- V1.70 以前で保存した ALL データをロードした場合、シーンにはカスタムフェーダーバンク設定が含まれていないため、ロードしたときのカレントシーンのカスタムフェーダーバンク設定がすべてのシーンに適用されます。したがってこの場合は、ALL データをロードする前にユーザーを切り替えたりしてカスタムフェーダーバンクを希望する設定にしておくか、カスタムフェーダーバンクにリコールセーフをかけておくことをおすすめします。
- CL V2.xx、CL/QL V3.xx、V4.xx、V5.xx ファームウェア対応のファイルコンバーターV5.2.0 を用意しています。

V5.80

V5.80 の新機能

- AFC Image のコントロールに対応し、オブジェクト操作やシーンリコールの連携ができるようになりました。
- Shure 製品(QLX-D、ULX-D、AXT Digital)の最新のバリエーションおよび帯域に対応しました。

V5.80 の改善点

- 遅延量の多いネットワークでも CL/QL Editor の接続が確立できるように改善しました。

V5.80 で修正された不具合

- CL/QL コンソールと DHCP サーバーを再起動したときに、ごくまれに他の TCP 通信に Dante モジュールが影響を与える不具合を修正しました。
- Rio3224-D2、Rio1608-D2 をマウント時、リモートコントロール状態が SYNCHRONIZING から CONTROLLABLE に変わらないことがある不具合を修正しました。

既知の不具合

- CL/QL シリーズ V5.80 において、古いバージョンで保存したコンソールファイル(.CLF)をロードすると、ロード中のディスプレイ下部に"Parameter out of range"と表示されることがあります。この場合はデータの一部が読み込まれていないので、一度コンソールの電源を切り、再起動後にもう一度ファイルを

ロードし直してください。CL/QL Editor V5.8.0 では正しくロードできます。正しくロードできたファイルを保存し直したファイルは、以降問題なくロードできるようになります。

- V5.80 以降で Dante Domain Manager のドメインに参加したことがあり、V5.70 以前にダウングレードした場合、Dante モジュールが正常に動作せず設定が変更できなくなることがあります。その場合は、Dante Domain Manager のドメインに参加させてから再起動してください。

または、Dante 設定を含めて本体を初期化(*)してください。

(*)CL シリーズの場合は[STORE]キーと[INC]キーを、QL シリーズの場合はマスターセクションの A と B の[SEL]キーを同時に押しながら電源を入れて初期化します。

- CL StageMix V8.1.1 において下記の既知の不具合が見つかりました。
 - Master バンク表示時に Stereo/Mono のレベルメーターが正常に動作している状態からナビゲーション/メーターブリッジにて別のバンクを選択した後再び Master バンクを表示すると Master バンク内のレベルメーターが消灯します。アプリケーションの再起動、または SETUP からメーターポイントを一旦変更すると復帰します。
 - StageMix の入力ポートのパッチ設定画面のオプション設定で“DANTE NAMES TO CHANNELS”を実行後、コンソール本体側からシーンリコールを実行すると、アプリケーションが強制終了する場合があります。その場合はアプリケーションを再起動してください。

- 予期せぬエラーが発生時に「kernel sysdwn」のメッセージが表示され操作が出来ない症状に陥ることがあります。

この状態に陥った場合機器の再起動が必要となり、再起動後 Dante(*)の設定を含む全てのデータが初期化されるため、適時データのバックアップをお願いいたします。

(*)Dante が初期化された場合デジチェーンモードになります。リダundant接続環境では Dante ネットワークケーブルを取り外した後に Dante の設定を再度実施してください。

- DDM(Dante Domain Manager)に参加しているデバイスが、まれに DEVICE MOUNT 画面で VIRTUAL の表示のままになることがあります。その場合は REFRESH ボタンを押して下さい。
- Dante Controller で CL シリーズに DVS(Dante Virtual Soundcard)をパッチしている状態で CL シリーズを再起動してもパッチが再現されないことがあります。その場合は Dante Controller で DVS を再度パッチしてください。なお、Windows 版の 3.2.0 より前の DVS では、41CH 以降のパッチが CL シリーズからできません。
- V1.15 までのバージョンで作成されたファイルをロードすると、接続していた R シリーズ以外の Dante 機器のマウント情報を引き継ぎません。DANTE INPUT PATCH LIBRARY をリコールしても同様です。必要に応じて V1.51 以降でマウントやパッチ、DANTE INPUT PATCH Library を設定しなおしてください。

お知らせ

- CL/QL/RIVAGE PM コンソール、R Remote から下記の各機器をリモートコントロールすることができます。同時に各機器をリモートコントロールできる CL/QL/RIVAGE PM コンソール、R Remote の台数は次のとおりです。
 - RMio64-D/RSio64-D/Tio1608-D(V1.04 以降): 最大 4 台の CL/QL、あるいは 6 台の R Remote
 - Rio/Ri/Ro/Rio3224-D2/Rio1608-D2: 最大 4 台の CL/QL/RIVAGE PM+別途 6 台の R Remote
- MonitorMix などの外部コントローラーは最大 10 台まで接続できます。
- Dante Controller でレイテンシーを設定する場合は、送信機器と受信機器で大きい(遅い)方の設定が有効になります。
- コンソールなどから SUPPORTED DEVICE として認識できるようにするためにはデバイスラベルの先頭に Y###-###(###は0~F までの 16 進数)という五文字の識別番号が必要です。
 - ヤマハ製 Dante 対応機器ではデバイス IDなどを参照して自動的に付与されます。(AIC128-D など一部製品では手動設定が必要です。)
 - Dante-MY16-AUD2 を含む Dante 対応サードパーティ製品では手動で設定する必要があります。
 - Shure 社製ワイヤレスレシーバーについてはセットアップガイドを確認のうえ設定してください。
 - デバイスラベルの制限
 - Y###-*****
 - # は 0 ~ 9、A ~ F(大文字)の 16 進数 3 桁(000 ~ FFF)
 - * は任意の文字(英字(大文字または小文字)、数字、-(ハイフン)が使用可)
 - Y を含めて 31 文字まで対応しています。
 - R シリーズについては Y###- で示される ID が大きさの違う R シリーズ間でも重複しないようにしてください。
- カスタムフェーダーバンクの設定は、ユーザー設定に含まれているだけでなく、V2.0 からシーンデータにも含まれています。ログインしているユーザーや、読み込んだデータのタイプやバージョンによって、呼び出されるカスタムフェーダーバンク設定が異なりますので、以下の点にご注意ください。
 - ALL タイプのコンソールデータを Administrator でロードすると、セーブされていた Administrator のカスタムフェーダーバンク設定が呼び出されます。Guest や他のユーザーで ALL データをロードすると、セーブされていたカレントシーンのカスタムフェーダーバンク設定が呼び出されます。
 - V1.70 以前で保存した ALL データをロードした場合、シーンにはカスタムフェーダーバンク設定が含まれていないため、ロードしたときのカレントシーンのカスタムフェーダーバンク設定が

すべてのシーンに適用されます。したがってこの場合は、ALL データをロードする前にユーザーを切り替えたりしてカスタムフェーダーバンクを希望する設定にしておくか、カスタムフェーダーバンクにリコールセーフをかけておくことをおすすめします。

- CL V2.xx、CL/QL V3.xx、V4.xx、V5.xx ファームウェア対応のファイルコンバーターV5.2.0 を用意しています。

V5.70

V5.70 の新機能

- Dante Domain Manager (DDM)の SMPTE モード*(ST2110-30 clocking)に対応しました。このため DDM 登録中は Word Clock と Preferred Master が変更できなくなります。

*DDM の SMPTE モードでは、ドメインは SMPTE ST2110-30 クロッキング用に構成され、Dante デバイスと非 Dante SMPTE デバイス間のオーディオの相互運用性を実現します。

- Shure 製ワイヤレスレシーバーの周波数 1.2GHz 帯に対応しました。

V5.70 の改善点

- 「kernel sysdwn」のメッセージが表示され、操作が出来ない症状を改善しました。
- DDM に参加しているデバイスが DEVICE MOUNT 画面で VIRTUAL の表示のままになる不具合を改善しました。

V5.70 で修正した不具合

- V5.60 で MTX3 の HA がコントロールできなくなっていた不具合を修正しました。
- パワーユーザーでログインした時、USER LEVEL で[FILE LOAD] - [LIBRARY LIST] の権限がないと INTERNAL USER KEY が生成できない不具合を修正しました。
- DANTE デバイスをマウントした時に Dante Output Patch が意図せず外れることがある不具合を修正しました。
- 起動時に、正常でも「NETWORK AUDIO MODULE FAILED. PLEASE RESTART THE CONSOLE.」のメッセージが出る可能性がある不具合を修正しました。

既知の不具合

- CL StageMix V8.1.1 において下記の既知の不具合が見つかりました。
 - Master バンク表示時に Stereo/Mono のレベルメーターが正常に動作している状態からナビゲーション/メーターブリッジにて別のバンクを選択した後再び Master バンクを表示すると Master バンク内のレベルメーターが消灯します。アプリケーションの再起動、または SETUP からメーターポイントを一旦変更すると復帰します。
 - StageMix の入力ポートのパッチ設定画面のオプション設定で“DANTE NAMES TO CHANNELS”を実行後、コンソール本体側からシーンリコールを実行すると、アプリケーションが強制終了する場合があります。その場合はアプリケーションを再起動してください。
- 予期せぬエラーが発生時に「kernel sysdwn」のメッセージが表示され操作が出来ない症状に陥ることがあります。

この状態に陥った場合機器の再起動が必要となり、再起動後 Dante(*) の設定を含む全てのデータが初期化されるため、適時データのバックアップをお願いいたします。

(*)Dante が初期化された場合デジチェーンモードになります。リダンダント接続環境では Dante ネットワークケーブルを取り外した後に Dante の設定を再度実施してください。
- DDM(Dante Domain Manager)に参加しているデバイスが、まれに DEVICE MOUNT 画面で VIRTUAL の表示のままになることがあります。その場合は REFRESH ボタンを押して下さい。
- Dante Controller で CL シリーズに DVS(Dante Virtual Soundcard)をパッチしている状態で CL シリーズを再起動してもパッチが再現されないことがあります。その場合は Dante Controller で DVS を再度パッチしてください。なお、Windows 版の 3.2.0 より前の DVS では、41CH 以降のパッチが CL シリーズからできません。
- V1.15 までのバージョンで作成されたファイルをロードすると、接続していた R シリーズ以外の Dante 機器のマウント情報を引き継ぎません。DANTE INPUT PATCH LIBRARY をリコールしても同様です。必要に応じて V1.51 以降でマウントやパッチ、DANTE INPUT PATCH Library を設定しなおしてください。

お知らせ

- CL/QL/RIVAGE PM コンソール、R Remote から下記の各機器をリモートコントロールすることができます。同時に各機器をリモートコントロールできる CL/QL/RIVAGE PM コンソール、R Remote の台数は次のとおりです。
 - RMio64-D/RSio64-D/Tio1608-D(V1.04 以降): 最大 4 台の CL/QL、あるいは 6 台の R Remote
 - Rio/Ri/Ro/Rio3224-D2/Rio1608-D2: 最大 4 台の CL/QL/RIVAGE PM+別途 6 台の R Remote

- MonitorMix は最大 10 台まで接続できます。
- Dante Controller でレイテンシーを設定する場合は、送信機器と受信機器で大きい(遅い)方の設定が有効になります。
- コンソールなどから SUPPORTED DEVICE として認識できるようにするためにはデバイスラベルの先頭に Y###-(###は0~F までの 16 進数)という五文字の識別番号が必要です。
 - ヤマハ製 Dante 対応機器ではデバイス IDなどを参照して自動的に付与されます。(AIC128-D など一部製品では手動設定が必要です。)
 - Dante-MY16-AUD2 を含む Dante 対応サードパーティ製品では手動で設定する必要があります。
 - Shure 社製ワイヤレスレシーバーについてはセットアップガイドを確認のうえ設定してください。
 - デバイスラベルの制限
 - Y###-*****
 - # は 0 ~ 9、A ~ F(大文字)の 16 進数 3 桁(000 ~ FFF)
 - * は任意の文字(英字(大文字または小文字)、数字、-(ハイフン)が使用可)
 - Yを含めて 31 文字まで対応しています。
 - R シリーズについては Y###-で示される ID が大きさの違う R シリーズ間でも重複しないようにしてください。
- カスタムフェーダーバンクの設定は、ユーザー設定に含まれているだけでなく、V2.0 からシーンデータにも含まれています。ログインしているユーザーや、読み込んだデータのタイプやバージョンによって、呼び出されるカスタムフェーダーバンク設定が異なりますので、以下の点にご注意ください。
 - ALL タイプのコンソールデータを Administrator でロードすると、セーブされていた Administrator のカスタムフェーダーバンク設定が呼び出されます。Guest や他のユーザーで ALL データをロードすると、セーブされていたカレントシーンのカスタムフェーダーバンク設定が呼び出されます。
 - V1.70 以前で保存した ALL データをロードした場合、シーンにはカスタムフェーダーバンク設定が含まれていないため、ロードしたときのカレントシーンのカスタムフェーダーバンク設定がすべてのシーンに適用されます。したがってこの場合は、ALL データをロードする前にユーザーを切り替えたりしてカスタムフェーダーバンクを希望する設定にしておくか、カスタムフェーダーバンクにリコールセーフをかけておくことをおすすめします。
- CL V2.xx、CL/QL V3.xx、V4.xx、V5.xx ファームウェア対応のファイルコンバーターV5.2.0 を用意しています。

V5.60

V5.60 の新機能

- DANTE I/O DEVICE としてサポートする機種を以下のとおり追加しました。
 - アンプ (NEXO NXAMP4X4MK2, Yamaha PC-D/DI シリーズ)
 - インターフェース (Neutrik NA2-IO-DPRO)

V5.60 の改善点

- Rupert Neve Designs RMP-D8 に対応する入力数を 8 IN から 16 IN に増やしました。
- 下記 I/O デバイスのバージョン表記「x.xx」を「x.x.x」に変更しました。
 - Yamaha DZR-D シリーズ
 - Focusrite 「RedNet 4」「RedNet MP8R」

V5.60 で修正した不具合

- サラウンドモードの時に、キュー割り込み機能により CUE のレベル設定ができない不具合を修正しました。
- フォーカスリコールが有効なシーンからグローバルペーストで「FOCUS」のみ別シーンにペーストすると、他パラメーターもペーストされる不具合を修正しました。
- カスタムフェーダーバンクに MATRIX バスを選択して MATRIX SEND [From MIX] 画面を操作したときに、操作した MATRIX バスとは異なる MATRIX バスの値が変更されてしまう不具合を修正しました。
- CL StageMix を接続したとき、最初の 1 回目だけ同期できないことがある不具合を修正しました。
- DYNAMICS1/2 画面にて、異なるアウトプット系チャンネルのゲインリダクション量が表示されることがある不具合を修正しました。

既知の不具合

- CL StageMix V8.1.1 において下記の既知の不具合が見つかりました。
 - Master バンク表示時に Stereo/Mono のレベルメーターが正常に動作している状態からナビゲーション/メーターブリッジにて別のバンクを選択した後再び Master バンクを表示すると

Master バンク内のレベルメーターが消灯します。アプリケーションの再起動、または SETUP からメーターポイントを一旦変更すると復帰します。

- StageMix の入力ポートのパッチ設定画面のオプション設定で“DANTE NAMES TO CHANNELS”を実行後、コンソール本体側からシーンリコールを実行すると、アプリケーションが強制終了する場合があります。その場合はアプリケーションを再起動してください。
- 予期せぬエラーが発生時に「kernel sysdwn」のメッセージが表示され操作が出来ない症状に陥ることがあります。
この状態に陥った場合機器の再起動が必要となり、再起動後 Dante(*) の設定を含む全てのデータが初期化されるため、適時データのバックアップをお願いいたします。
(*)Dante が初期化された場合デジチェーンモードになります。リダンダント接続環境では Dante ネットワークケーブルを取り外した後に Dante の設定を再度実施してください。
- DDM(Dante Domain Manager)に参加しているデバイスが、まれに DEVICE MOUNT 画面で VIRTUAL の表示のままになることがあります。その場合は REFRESH ボタンを押して下さい。
- Dante Controller で CL シリーズに DVS(Dante Virtual Soundcard)をパッチしている状態で CL シリーズを再起動してもパッチが再現されないことがあります。その場合は Dante Controller で DVS を再度パッチしてください。なお、Windows 版の 3.2.0 より前の DVS では、41CH 以降のパッチが CL シリーズからできません。
- V1.15 までのバージョンで作成されたファイルをロードすると、接続していた R シリーズ以外の Dante 機器のマウント情報を引き継ぎません。DANTE INPUT PATCH LIBRARY をリコールしても同様です。必要に応じて V1.51 以降でマウントやパッチ、DANTE INPUT PATCH Library を設定しなおしてください。

お知らせ

- CL/QL/RIVAGE PM コンソール、R Remote から下記の各機器をリモートコントロールすることができます。同時に各機器をリモートコントロールできる CL/QL/RIVAGE PM コンソール、R Remote の台数は次のとおりです。
 - RMio64-D/RSio64-D/Tio1608-D(V1.04 以降): 最大 4 台の CL/QL、あるいは 6 台の R Remote
 - Rio/Ri/Ro/Rio3224-D2/Rio1608-D2: 最大 4 台の CL/QL/RIVAGE PM+別途 6 台の R Remote
- MonitorMix は最大 10 台まで接続できます。

- Dante Controller でレイテンシーを設定する場合は、送信機器と受信機器で大きい(遅い)方の設定が有効になります。
- コンソールなどから SUPPORTED DEVICE として認識できるようにするためにはデバイスラベルの先頭に Y###-(###は0~F までの 16 進数)という五文字の識別番号が必要です。
 - ヤマハ製 Dante 対応機器ではデバイス ID などを参照して自動的に付与されます。(AIC128-D など一部製品では手動設定が必要です。)
 - Dante-MY16-AUD2 を含む Dante 対応サードパーティ製品では手動で設定する必要があります。
 - Shure 社製ワイヤレスレシーバーについてはセットアップガイドを確認のうえ設定してください。
 - デバイスラベルの制限
 - Y###-*****
 - # は 0 ~ 9、A ~ F(大文字)の 16 進数 3 桁(000 ~ FFF)
 - * は任意の文字(英字(大文字または小文字)、数字、-(ハイフン)が使用可)
 - Y を含めて 31 文字まで対応しています。
 - R シリーズについては Y###- で示される ID が大きさの違う R シリーズ間でも重複しないようにしてください。
- カスタムフェーダーバンクの設定は、ユーザー設定に含まれているだけでなく、V2.0 からシーンデータにも含まれています。ログインしているユーザーや、読み込んだデータのタイプやバージョンによって、呼び出されるカスタムフェーダーバンク設定が異なりますので、以下の点にご注意ください。
 - ALL タイプのコンソールデータを Administrator でロードすると、セーブされていた Administrator のカスタムフェーダーバンク設定が呼び出されます。Guest や他のユーザーで ALL データをロードすると、セーブされていたカレントシーンのカスタムフェーダーバンク設定が呼び出されます。
 - V1.70 以前で保存した ALL データをロードした場合、シーンにはカスタムフェーダーバンク設定が含まれていないため、ロードしたときのカレントシーンのカスタムフェーダーバンク設定がすべてのシーンに適用されます。したがってこの場合は、ALL データをロードする前にユーザーを切り替えたりしてカスタムフェーダーバンクを希望する設定にしておくか、カスタムフェーダーバンクにリコールセーフをかけておくことをおすすめします。
- CL V2.xx、CL/QL V3.xx、V4.xx、V5.xx ファームウェア対応のファイルコンバーターV5.2.0 を用意しています。

V5.51

V5.51 で修正した不具合

- MATRIX バスをステレオ設定後、該当の MATRIX バスのセレクトッドチャンネル画面を表示した状態で FROM MIX タブを切り替えたり、別の MATRIX バスに切り替えたりすると以下のエラーが表示される不具合を修正しました。
[lcd_message] Code=3293
- MIX バスをステレオ設定にしたときに MATRIX バスのセレクトッドチャンネルの FROM MIX タブから ON スイッチ、センドレベルを操作すると、操作した MIX バスとは異なる MIX バスの値が変更されてしまう不具合を修正しました。

V5.50 の新機能

- ProVisionaire Control のシステムモニタリング機能に対応しました。

V5.50 の改善点

- MUTE GROUP に関する設定を変更するときに、ミュート一時解除をクリアするようにしました。

V5.50 で修正した不具合

- フェーダーキャリブレーションページから抜けるとパネル上の LED の輝度が最大になる不具合を修正しました。
- コンソールの 64 チャンネルすべての DANTE INPUT PATCH が設定されている状態のときに、コンソールの[STORE]キーを押しながら電源を入れて起動メニュー画面を表示すると、すべての DANTE INPUT PATCH が解除されることがある不具合を修正しました。
- Firmware V4.00 以降のバージョンにおいて、MIDI Control Change による Specific CUE, Clear CUE 等の CUE の制御ができない不具合を修正しました。
- 管理者権限のままコンソールを再起動したとき、パスワードの入力ダイアログ表示中にゲスト権限では制限している操作が一時的に可能となっている不具合を修正しました。
- 異なる設定の MIX バスをステレオ設定にすると L/R いずれかのバスに送られない、またはオン/オフを変更できないことがある不具合を修正しました。
- USB メモリの挿入時、接触不良などによる誤認識で、CL/QL 本体が不適切な状態になることがある症状を改善しました。(以下の補足情報を参照ください)

補足

Ver5.10 以前のファームウェアを使用した場合、USB メモリのデータ破損や接触不良などによる誤認識により「kernel sysdwn」のメッセージが表示され操作が出来ない症状に陥ることがあります。

この状態に陥った場合機器の再起動が必要となり、再起動後(*)Dante の設定を含む全てのデータが初期化されます。

本バージョンにて発生頻度は改善されていますが、USB メモリの状態に依存するため依然同様の症状が発生する可能性があります。

事前に使用する USB メモリに問題がないことを確認し、本番中の USB の抜き差しは極力行わないようにお願いします。

また、適時データのバックアップをお願いいたします。

(*)Dante が初期化された場合デイジーチェーンモードになります。リダンダント接続環境では Dante ネットワークケーブルを取り外した後に Dante の設定を再度実施してください。

- CL/QL Editor、CL/QL StageMix など多数のミキサーコントローラーが接続されているときに Dante デバイスを、24 台フルにデバイスをマウントできないことがある不具合を修正しました。
- DANTE INPUT PATCH 画面で AES67 Flow とのパッチが表示されない不具合を修正しました。
- USB メモリーから本体ファームウェアと Dante ファームウェアを更新するとき、Dante ファームウェアのみ更新を失敗する不具合を修正しました。
- CL/QL StageMix から GEQ FLAT 操作を行なった場合に、オンライン状態の CL/QL Editor には反映されない不具合を修正しました。
- MTX-MRX Editor を同期した後に、CL/QL シリーズと MTX/MRX シリーズのパラメーターの値が一致しないことがある不具合を修正しました。
- Shure 社製デバイスをマウントした場合に、DEVICE LIST フィールドの空欄の位置で DEVICE IDENTIFY ボタンが有効になる不具合を修正しました。
- 8Band PEQ をステレオリンクする際 RESET BOTH を選択すると、EQ タイプが一致しないことがある不具合を修正しました。
- その他軽微な不具合を修正しました。

既知の不具合

- CL/QL StageMix V8.1.1 において下記の既知の不具合が見つかりました。
 - Master バンク表示時に Stereo/Mono のレベルメーターが正常に動作している状態からナビゲーション/メーターブリッジにて別のバンクを選択した後再び Master バンクを表示すると Master バンク内のレベルメーターが消灯します。アプリケーションの再起動、または SETUP からメーターポイントを一旦変更すると復帰します。

- StageMix の入力ポートのパッチ設定画面のオプション設定で“DANTE NAMES TO CHANNELS”を実行後、コンソール本体側からシーンリコールを実行すると、アプリケーションが強制終了する場合があります。その場合はアプリケーションを再起動してください。
- 予期せぬエラーが発生時に「kernel sysdwn」のメッセージが表示され操作が出来ない症状に陥ることがあります。
この状態に陥った場合機器の再起動が必要となり、再起動後 Dante(*)の設定を含む全てのデータが初期化されるため、適時データのバックアップをお願いいたします。
(*)Dante が初期化された場合デイジーチェーンモードになります。リダンダント接続環境では Dante ネットワークケーブルを取り外した後に Dante の設定を再度実施してください。
- DDM(Dante Domain Manager)に参加しているデバイスが、まれに DEVICE MOUNT 画面で VIRTUAL の表示のままになることがあります。その場合は REFRESH ボタンを押して下さい。
- Dante Controller で CL シリーズに DVS(Dante Virtual Soundcard)をパッチしている状態で CL シリーズを再起動してもパッチが再現されないことがあります。その場合は Dante Controller で DVS を再度パッチしてください。なお、Windows 版の 3.2.0 より前の DVS では、41CH 以降のパッチが CL シリーズからできません。
- V1.15 までのバージョンで作成されたファイルをロードすると、接続していた R シリーズ以外の Dante 機器のマウント情報を引き継ぎません。DANTE INPUT PATCH LIBRARY をリコールしても同様です。必要に応じて V1.51 以降でマウントやパッチ、DANTE INPUT PATCH Library を設定しなおしてください。

お知らせ

- CL/QL/RIVAGE PM10/PM7 コンソール、R Remote から下記の各機器をリモートコントロールすることができます。同時に各機器をリモートコントロールできる CL/QL/RIVAGE PM10/PM7 コンソール、R Remote の台数は次のとおりです。
 - RMio64-D/RSio64-D/Tio1608-D(V1.04 以降): 最大 4 台の CL/QL、あるいは 6 台の R Remote
 - Rio/Ri/Ro/Rio3224-D2/Rio1608-D2: 最大 4 台の CL/QL/RIVAGE PM10/PM7+別途 6 台の R Remote
- MonitorMix は最大 10 台まで接続できます。
- Dante Controller でレイテンシーを設定する場合は、送信機器と受信機器で大きい(遅い)方の設定が有効になります。
- コンソールなどから SUPPORTED DEVICE として認識できるようにするためにはデバイスラベルの先頭に Y###-(###は0~F までの 16 進数)という五文字の識別番号が必要です。

- ヤマハ製 Dante 対応機器ではデバイス IDなどを参照して自動的に付与されます。(AIC128-D など一部製品では手動設定が必要です。)
- Dante-MY16-AUD2を含む Dante 対応サードパーティ製品では手動で設定する必要があります。
- Shure 社製ワイヤレスレシーバーについてはセットアップガイドを確認のうえ設定してください。
- デバイスラベルの制限
 - Y###-*****
 - # は 0 ~ 9、A ~ F(大文字)の 16 進数 3 桁(000 ~ FFF)
 - * は任意の文字(英字(大文字または小文字)、数字、-(ハイフン)が使用可)
 - Yを含めて 31 文字まで対応しています。
 - R シリーズについては Y###-で示される ID が大きさの違う R シリーズ間でも重複しないようにしてください。
- カスタムフェーダーバンクの設定は、ユーザー設定に含まれているだけでなく、V2.0 からシーンデータにも含まれています。ログインしているユーザーや、読み込んだデータのタイプやバージョンによって、呼び出されるカスタムフェーダーバンク設定が異なりますので、以下の点にご注意ください。
 - ALL タイプのコンソールデータを Administrator でロードすると、セーブされていた Administrator のカスタムフェーダーバンク設定が呼び出されます。Guest や他のユーザーで ALL データをロードすると、セーブされていたカレントシーンのカスタムフェーダーバンク設定が呼び出されます。
 - V1.70 以前で保存した ALL データをロードした場合、シーンにはカスタムフェーダーバンク設定が含まれていないため、ロードしたときのカレントシーンのカスタムフェーダーバンク設定がすべてのシーンに適用されます。したがってこの場合は、ALL データをロードする前にユーザーを切り替えたりしてカスタムフェーダーバンクを希望する設定にしておくか、カスタムフェーダーバンクにリコールセーフをかけておくことをおすすめします。
- CL V2.xx、CL/QL V3.xx、V4.xx、V5.xx ファームウェア対応のファイルコンバーターV5.0.0 を用意しています。

V5.10

V5.10 の新機能

- DANTE I/O DEVICE としてサポートする機種を追加しました。

[対応機種はこちら\(PDF\)](#)

- アンプ(NEXO NXAMPmk2*)、パワードスピーカー(Yamaha DZR-D シリーズ、DXS XLF-D シリーズ)をリモート操作できるようになりました。

* CL/QL シリーズから NXAMPmk2 をリモート操作するために下記の設定が必要です。

- NXAMPmk2 のファームウェアを LOAD4_21 以降にアップデートする。
- NXAMPmk2 に標準カード(NXRM104)、または Dante カード(NXDT104mk2)を装着する。

V5.10 の改善点

- USER DEFINED キーで割り当てた MIDI メッセージのノートオンが出力されているときに、シーンが更新されるとノートオフが出力されていました。そのノートオフが出力されないように変更しました。
- 一部部品の生産終了に伴う Dante モジュールのハードウェア変更への対応をしました。

V5.10 で修正した不具合

- コンソールの電源投入時に、DANTE SETUP 内の DEVICE MOUNT 画面にて CL/QL にマウントした対応 Dante 機器がまれに正常にオンラインでマウントされないことがある不具合を修正しました。

V5.01 で修正した不具合

- REMOTE HA ASSIGN 画面で、下記 I/O デバイスで WITH RECALL を OFF にしてマウントしている場合に、[#1]にマウントしているデバイスのチャンネル 1 の HA パラメーターが初期値にリセットされる不具合を修正しました。
 - Tio1608-D
 - Focusrite 製「RedNet 4」「RedNet MP8R」
 - Rupert Neve Designs 製「RMP-D8」
- MIDI Control Change や MIDI Parameter Change の受信と同時にフェーダーやエンコーダーノブを手動で連続操作していると、コンソールが MIDI メッセージを受信しないことがある不具合を修正しました。

V5.00 の新機能

- DANTE I/O DEVICE としてサポートする機種を追加しました。
- シーンをリコールするときに、チャンネルごとのフェードタイムを個別に設定する INDIVIDUAL FADE TIME に対応しました。
- プレミアムラックのデバイスに Portico5045(プライマリーソースエンハンサー)を追加しました。

V5.00 の改善点

- Channel Name Display のコントラストの基準値を変更しました。見え方が変わったと感じたお客様は SETUP メニューより調整ください。

V5.00 で修正した不具合

- コンソールの電源投入時、シーンリコール時、またはファイルロード時に R-Series (Rio/Ri/Rio-D2)に割り当てた一部の INPUT チャンネルの HA パラメーターが R-Series 側の現在値に戻される不具合を修正しました。
- Rio3224-D2/Rio1608-D2 を複数台マウントしたときに、HA の操作が遅延する不具合と「No Response from I/O DEVICE」のエラーが出る不具合を修正しました。
- Rio3224-D2/Rio1608-D2 で電源リダントのエラーが発生したときに、それらの機器をマウントしている CL/QL 上の SYSTEM/SYNC エラーメッセージが「DANTE SETTING MISMATCH」と誤表示される不具合を修正しました。
- その他の軽微な不具合を修正しました。

既知の不具合

- 以下の状態のときに CL コンソールの[STORE]キーを押しながら電源を入れて起動メニュー画面を表示すると、すべての INPUT チャンネルのパッチが解除されることがあります。
 - Dante の 64 チャンネルを CL コンソールのすべての INPUT チャンネルにパッチした。

暫定回避策

起動メニュー画面を表示する前にコンソールの設定データを USB メモリーに保存してください。

この不具合は次回以降のバージョンで修正予定です。

- CL/QL Firmware V4.00 およびそれ以降のバージョンにおいて、MIDI Control Change の受信による Specific CUE, Clear CUE 等の CUE の制御ができない問題が見つかりました。CL/QL コンソールの CUE の操作による MIDI Control Change の出力には問題ありません。

暫定回避策

MIDI Parameter Change の受信による CUE 機能の制御は可能です。

この問題は V5.10 の次のバージョンで修正予定です。

- Dante Controller で CL シリーズに DVS(Dante Virtual Soundcard)をパッチしている状態で CL シリーズを再起動してもパッチが再現されないことがあります。その場合は Dante Controller で DVS を再度パッチしてください。なお、Windows 版の 3.2.0 より前の DVS では、41CH 以降のパッチが CL シリーズからできません。
- V1.15 までのバージョンで作成されたファイルをロードすると、接続していた R シリーズ以外の Dante 機器のマウント情報を引き継ぎません。DANTE INPUT PATCH LIBRARY をリコールしても同様です。必要に応じて V1.51 以降でマウントやパッチ、DANTE INPUT PATCH Library を設定しなおしてください。

お知らせ

- CL/QL/RIVAGE PM10/PM7 コンソール、R Remote から下記の各機器をリモートコントロールすることができます。同時に各機器をリモートコントロールできる CL/QL/RIVAGE PM10/PM7 コンソール、R Remote の台数は次のとおりです。
 - RMio64-D/RSio64-D/Tio1608-D(V1.04 以降): 最大 4 台の CL/QL、あるいは 6 台の R Remote
 - Rio/Ri/Ro/Rio3224-D2/Rio1608-D2: 最大 4 台の CL/QL/RIVAGE PM10/PM7+別途 6 台の R Remote
- MonitorMix は最大 10 台まで接続できます。
- Dante Controller でレイテンシーを設定する場合は、送信機器と受信機器で大きい(遅い)方の設定が有効になります。
- コンソールなどから SUPPORTED DEVICE として認識できるようにするためにはデバイスラベルの先頭に Y###-(###は0~F までの 16 進数)という五文字の識別番号が必要です。
 - ヤマハ製 Dante 対応機器ではデバイス IDなどを参照して自動的に付与されます。(AIC128-D など一部製品では手動設定が必要です。)
 - Dante-MY16-AUD2 を含む Dante 対応サードパーティ製品では手動で設定する必要があります。
 - Shure 社製ワイヤレスレシーバーについてはセットアップガイドを確認のうえ設定してください。
 - デバイスラベルの制限
 - Y###-*****

- # は 0 ~ 9、A ~ F(大文字)の 16 進数 3 桁(000 ~ FFF)
 - * は任意の文字(英字(大文字または小文字)、数字、-(ハイフン)が使用可)
 - Y を含めて 31 文字まで対応しています。
 - R シリーズについては Y###-で示される ID が大きさの違う R シリーズ間でも重複しないようにしてください。
- カスタムフェーダーバンクの設定は、ユーザー設定に含まれているだけでなく、V2.0 からシーンデータにも含まれています。ログインしているユーザーや、読み込んだデータのタイプやバージョンによって、呼び出されるカスタムフェーダーバンク設定が異なりますので、以下の点にご注意ください。
 - ALL タイプのコンソールデータを Administrator でロードすると、セーブされていた Administrator のカスタムフェーダーバンク設定が呼び出されます。Guest や他のユーザーで ALL データをロードすると、セーブされていたカレントシーンのカスタムフェーダーバンク設定が呼び出されます。
 - V1.70 以前で保存した ALL データをロードした場合、シーンにはカスタムフェーダーバンク設定が含まれていないため、ロードしたときのカレントシーンのカスタムフェーダーバンク設定がすべてのシーンに適用されます。したがってこの場合は、ALL データをロードする前にユーザーを切り替えたりしてカスタムフェーダーバンクを希望する設定にしておくか、カスタムフェーダーバンクにリコールセーブをかけておくことをおすすめします。
 - CL V2.xx、CL/QL V3.xx、V4.xx、V5.xx ファームウェア対応のファイルコンバーターV5.0.0 を用意しています。

V5.01

V5.01 で修正した不具合

- REMOTE HA ASSIGN 画面で、下記 I/O デバイスで WITH RECALL を OFF にしてマウントしている場合に、[#1]にマウントしているデバイスのチャンネル 1 の HA パラメーターが初期値にリセットされる不具合を修正しました。
 - Tio1608-D
 - Focusrite 製「RedNet 4」「RedNet MP8R」
 - Rupert Neve Designs 製「RMP-D8」
- MIDI Control Change や MIDI Parameter Change の受信と同時にフェーダーやエンコーダーノブを手動で連続操作していると、コンソールが MIDI メッセージを受信しないことがある不具合を修正しました。

V5.00 の新機能

- DANTE I/O DEVICE としてサポートする機種を追加しました。
- シーンをリコールするときに、チャンネルごとのフェードタイムを個別に設定する INDIVIDUAL FADE TIME に対応しました。
- プレミアムラックのデバイスに Portico5045(プライマリーソースエンハンサー)を追加しました。

V5.00 の改善点

- Channel Name Display のコントラストの基準値を変更しました。見え方が変わったと感じたお客様は SETUP メニューより調整ください。

V5.00 で修正した不具合

- コンソールの電源投入時、シーンリコール時、またはファイルロード時に R-Series (Rio/Ri/Rio-D2)に割り当てた一部の INPUT チャンネルの HA パラメーターが R-Series 側の現在値に戻される不具合を修正しました。
- Rio3224-D2/Rio1608-D2 を複数台マウントしたときに、HA の操作が遅延する不具合と「No Response from I/O DEVICE」のエラーが出る不具合を修正しました。
- Rio3224-D2/Rio1608-D2 で電源リダントのエラーが発生したときに、それらの機器をマウントしている CL/QL 上の SYSTEM/SYNC エラーメッセージが「DANTE SETTING MISMATCH」と誤表示される不具合を修正しました。
- その他の軽微な不具合を修正しました。

既知の不具合

- CL/QL Firmware V4.50, V4.51, V5.00, V5.01 に対応する Dante Firmware 4.0.8.2-4.0.3.7-2.0.1 および 4.0.8.2-4.0.3.7-2.0.6 において発生する不具合が確認されました。

コンソールの電源投入時に、DANTE SETUP 内の DEVICE MOUNT 画面にて CL/QL にマウントした対応 Dante 機器がまれに正常にオンラインでマウントされないことがあります。

オフライン中はコンソールからの Dante パッチ設定や HA パラメーターの調整ができません。コンソールの電源投入後、数分が経過しても DEVICE MOUNT 画面にて該当の I/O デバイスが VIRTUAL 表示のままになっている場合はコンソールの再起動をお願いいたします。この問題は次

期 Dante Firmware にて修正される予定です。

- Dante Controller で CL シリーズに DVS(Dante Virtual Soundcard)をパッチしている状態で CL シリーズを再起動してもパッチが再現されないことがあります。その場合は Dante Controller で DVS を再度パッチしてください。なお、Windows 版の 3.2.0 より前の DVS では、41CH 以降のパッチが CL シリーズからできません。
- V1.15 までのバージョンで作成されたファイルをロードすると、接続していた R シリーズ以外の Dante 機器のマウント情報を引き継ぎません。DANTE INPUT PATCH LIBRARY をリコールしても同様です。必要に応じて V1.51 以降でマウントやパッチ、DANTE INPUT PATCH Library を設定しなおしてください。

お知らせ

- CL/QL コンソール、R Remote から下記の各機器をリモートコントロールすることができます。同時に各機器をリモートコントロールできる CL/QL コンソール、R Remote の台数は次のとおりです。

RSio64-D/Tio1608-D: Maximum of two CL/QL/R Remote units.

RSio64-D/Tio1608-D: 最大 2 台の CL/QL/R Remote

Rio/Ri/Ro: 最大 4 台の CL/QL+別途 2 台の R Remote Rio3224-D2/Rio1608-D2:

最大 4 台の CL/QL+別途 5 台の R Remote

- MonitorMix は最大 10 台まで接続できます。
- Dante Controller でレイテンシーを設定する場合は、送信機器と受信機器で大きい(遅い)方の設定が有効になります。
- 以下のデバイスラベルは SUPPORTED DEVICE として認識するために使用します。(Dante 非対応モデルは除く)

Y###-*****

は 0 ~ 9、A ~ F(大文字) の 16 進数 3 桁(000 ~ FFF)

* は任意の文字(英字(大文字または小文字)、数字、-(ハイフン) が使用可)

Yを含めて 31 文字まで対応しています。

R シリーズについては Y###-で示される ID が大きさの違う R シリーズ間でも重複しないようにしてください。

- カスタムフェーダーバンクの設定は、ユーザー設定に含まれているだけでなく、V2.0 からシーンデータにも含まれています。ログインしているユーザーや、読み込んだデータのタイプやバージョンによって、呼び出されるカスタムフェーダーバンク設定が異なりますので、以下の点にご注意ください。

ALL タイプのコンソールデータを Administrator でロードすると、セーブされていた Administrator のカスタムフェーダーバンク設定が呼び出されます。Guest や他のユーザーで ALL データをロードすると、セーブされていたカレントシーンのカスタムフェーダーバンク設定が呼び出されます。

V1.70 以前で保存した ALL データをロードした場合、シーンにはカスタムフェーダーバンク設定が含まれていないため、ロードしたときのカレントシーンのカスタムフェーダーバンク設定がすべてのシーンに適用されます。したがってこの場合は、ALL データをロードする前にユーザーを切り替えてリしてカスタムフェーダーバンクを希望する設定にしておくか、カスタムフェーダーバンクにリコールセーブをかけておくことをおすすめします。

- CL V2.xx、CL/QL V3.xx、V4.xx、V5.xx ファームウェア対応のファイルコンバーターV4.0.0 を用意しています。

V4.50

V4.50 の新機能

- Dante Domain Manager に対応しました。
- Rio3224-D2、Rio1608-D2 に対応しました。

V4.50 の改善点

- Dante のステータス表示を改良しました。
- シーンリコールすると閉じていたプレミアムラックのエディット画面が、同じモジュールを選択しているシーンのリコールでは閉じなくなりました。

V4.51 の改善点

- Dante Virtual Soundcard (DVS) V4.0.3.1 以降をサポート機器 (SUPPORTED DEVICE)として認識するように改善しました。
- 稀に CL StageMix から CL コンソールを発見できないことがあることを改善しました。

V4.50 で修正した不具合

- 特定の条件下で Dante ネットワークの構成を変更すると、エラーメッセージが表示されて本体の再起動が必要になる不具合を修正しました。
- MATRIX 7/8 にセンドしている INPUT BUS/MIX BUS を DCA ミュートしているときに、ミュート中のチャンネル ON/OFF や CUE を操作すると一瞬ユニティーレベルで音声信号が出力される不具合を修正しました。
- プラグインの OpenDeck が初期設定で音が出ない不具合を修正しました。
- V4 以前で作られた EQ Library を読み込むと、High バンドのゲインが 0dB になる不具合を修正しました。
- EQ の Band Bypass を変更したときに、オーバービューの EQ グラフに反映されない不具合を修正しました。
- BUS SETUP でステレオに設定されている MIX BUS などに対して、RECALL SAFE などの機能にある CH LINK でオフセットが掛かっていると、StageMix が同期できなくなる不具合を修正しました。
- USB メモリーの挿入時、接触不良などによる誤認識で、CL/QL 本体が不適切な状態になることがある不具合を修正しました。
- “No response from I/O device” メッセージが誤って表示される不具合を修正しました。
- CUE B を Remote モードに設定しているときに、本体の CUE CLEAR が CUE B もクリアしてしまう不具合を修正しました。
- RECORDER 画面を閉じているときに、USER DEFINED KEY 設定した[Next][Prev]が動作しない不具合を修正しました。

V4.10

各機器をリモートコントロールできる台数は次のとおりです。

RSio64-D/Tio1608-D: 最大 2 台の CL/QL/R Remote

RMio64-D: 最大 6 台の CL/QL/R Remote

Rio/Ri/Ro: 最大 4 台の CL/QL+別途 2 台の R Remote

MonitorMix は最大 10 台まで接続できます。

V4.10 の新機能

- オーディオネットワークの相互接続規格「AES67」に対応しました。
- Dante Device Lock に対応しました。
- Dante 接続非対応の Shure 社 AXT400、QLXD4、ULXD4 のデバイスコントロールができるようになりました。
- DHCP や STATIC IP をリモートコントロール用に設定できるようになりました。
- Audinate 社 Dante-MY16-AUD2 と d&b audiotechnik 社 DS10 を新たにサポートしました。

Dante Controller で以下のようにデバイラベルをつけることで、SUPPORTED DEVICE として認識します。

Y###-*****

#は UNIT ID で、0 ~ 9、A ~ F(大文字) の 16 進数 3 桁(000 ~ FFF) * は任意の文字(英字(大文字または小文字)、数字、-(ハイフン) が使用可)

- EQ タイプを全チャンネルで一括して設定できるようになりました。
- RSio64-D に挿入されている Mini-YGDAI カード MY8-AE96S の内蔵サンプリングレートコンバーターのステータス表示をするようになりました。

V4.10 の改善点

- チャンネルカラー選択ボタンにカラーネームも表示するようになりました。
- Dante ネットワークがギガビットイーサネットとしてリンクしていないときに、LCD 下部にメッセージが表示されるようになりました。
- RTA の画面でスケール変更とオフセットゲイン追加により、周波数解析表示の視認性が向上しました。
- PATCH/NAME 画面や CH SELECT 画面、PORT SELECT 画面で、チャンネルネームやエフェクトタイプ名が表示されるようになりました。
- PRECISE タイプの EQ で Q ノブの押し回しで、シェルビングタイプ、フィルターへ切り替えできるようになりました。
- フェーダーキャリブレーションの 0dB 位置での補正範囲を広げました。

V4.10 で修正した不具合

- RSio64-D がマウントされていないときに、マウントされた状態のコンソールファイルをロードすると、デバイス情報を正しく取得できず、ユーザーパッチが初期化される不具合を修正しました。
- 31Band GEQ のリンク設定を解除したときに、隣接したラックのリンク設定も解除される不具合を修正しました。

V4.04

V4.04 で修正した不具合

- Shure 社 ULXD レシーバーで L53 バンドのコントロール&モニタリングに対応しました。
- PREMIUM RACK の EQ-1A をご使用時に、LO BOOST パラメーター操作によるノイズ、および特定の条件においてミュートがごく稀に発生することある不具合を修正しました。
- CL/QL シリーズから Tio1608-D の HA コントロールができなくなることがある不具合を修正しました。
- コンソール以外でシーンリコールすると、パネルのチャンネル ON キー表示が正しく更新されない不具合を修正しました。

V4.02

V4.02 で修正した不具合

- Shure ULXD レシーバー接続時に発生する以下の不具合を修正しました。
 - 旧 A 帯、B 帯 モデルではコンソールと接続した時に、レシーバーLCD の GROUP/CH 表示が非設定になる。
 - P51 バンド(ドイツおよび中国のみ)の 710~770MHz の周波数を使用しているとコンソール接続時に受信周波数を変更される。
- FOCUS がオフで DCA の LEVEL/ON もオフに設定したシーンをリコールすると、DCA フェーダー位置が正しくリコールされない不具合を修正しました。

V4.01

V4.01 で修正した不具合

- 特定の条件で「パネル上のフェーダーを操作しても値が変化しない」不具合を修正しました。
- QL V1.0x、CL V1.70/V2.0x で作成された Scene データが、Out of Range の表示が出てロードできない不具合を修正しました。

V4.00

各機器をリモートコントロールできる台数は次のとおりです。

RSio64-D/Tio1608-D: 最大 2 台の CL/QL/R Remote

RMio64-D: 最大 6 台の CL/QL/R Remote

Rio/Ri/Ro:最大 4 台の CL/QL+別途 2 台の R Remote

MonitorMix は最大 10 台まで接続できます。

V4.00 の新機能

- チャンネル EQ に新アルゴリズム「Precise」「Aggressive」「Smooth」を追加しました。
- Premium Rack に新デバイス「MBC4」(マルチバンドコンプレッサー)を追加しました。
- Shure 社のデジタルワイヤレスレシーバー「ULXD4D」「ULXD4Q」のコントロール&モニタリングに対応しました。
- Solo Mode を追加し、CUE キーを使ったインプット/アウトプットのソロ機能に対応しました。
- Second Cue Bus 機能を追加し、MATRIX バス 7/8 を CUE B バスとして使えるようになりました。
- iPhone アプリケーション「MonitorMix」に対応しました。最大 10 台までを同時に使用して、各演奏者が手元で好みのモニターミックスバランスに調整できます。
- DCA Roll-Out されたフェーダーのスクロールに対応しました。
- [TOUCH AND TURN]ノブを使って GEQ のゲインを調整できるようになりました。

- I/O ラック Tio1608-D の HA コントロールに対応しました。
- DYNAMICS1 の COMPRESSOR、EXPANDER が、Key In Filter に対応しました。
- FOCUS RECALL/RECALL SAFE/GLOBAL PASTE に、MUTE GROUP ASSIGN、BUS SETUP、SURROUND SETUP の項目を追加しました。また、対象となる TO ST のパラメーターに、各インプットチャンネルの LR ノミナル設定を追加しました。
- サポートする Dante 機器として、AVIOM D400、Yamaha MRX7-D を追加しました。

V4.00 の改善点

- FILE LOAD 時に、それぞれのカテゴリにメモリーされている内容が、その仕様になった時のバージョンを表示するようになりました。
- LAST CUE 時も MIX CUE と同様に、OUT や DCA IN とスタックできるようになりました。

V4.00 で修正した不具合

- Buss Comp 369 の Library Recall 時に、SCENE 000 の Data を MIDI 送信していた不具合を修正しました。シーンリコール時に、リコールセーフをかけたフェーダーを操作すると、フェーダー操作が無視されてフェーダー値と位置が合わなくなることがある不具合を修正しました。
- CH LINK を設定しているチャンネルで CH MOVE を実行したときに、そのリンク設定にかかわらず LINK A のリンク設定でパラメーターが変更されてしまうことがある不具合を修正しました。

既知の不具合

- RSio64-D がマウントされていないときに、マウントされた状態のコンソールファイルをロードすると、デバイス情報を正しく取得できず、ユーザーパッチが初期化されます。
- QL V1.00、CL V1.70/V2.00 で作成された Scene データは、V4.00 では Out of Range の表示が出てロードできません。これらのデータは、あらかじめ V3.11 の本体または V3.10 のエディターで一旦データファイルを保存しなおしてからご使用ください。
- Dante Controller で CL シリーズに DVS(Dante Virtual Soundcard)をパッチしている状態で CL シリーズを再起動してもパッチが再現されないことがあります。その場合は Dante Controller で DVS を再度パッチしてください。なお、Windows 版の 3.2.0 より前の DVS では、41CH 以降のパッチが CL シリーズからできません。
- V1.15 までのバージョンで作成されたファイルをロードすると、接続していた R シリーズ以外の Dante 機器

のマウント情報を引き継ぎません。DANTE INPUT PATCH LIBRARY をリコールしても同様です。必要に応じて V1.51 以降でマウントやパッチ、DANTE INPUT PATCH Library を設定しなおしてください。

- CH LINK を設定しているチャンネルで CH MOVE を実行したときに、そのリンク設定にかかわらず LINK A のリンク設定でパラメーターが変更されてしまうことがあります。

お知らせ

- Dante Controller でレイテンシーを設定する場合は、送信機器と受信機器で大きい(遅い)方の設定が有効になります。
- 以下のデバイスラベルは SUPPORTED DEVICE として認識するために使用します。

Y###-*****

は 0 ~ 9、A ~ F(大文字)の16進数3桁(000 ~ FFF)

* は任意の文字(英字(大文字または小文字)、数字、-(ハイフン)が使用可)

Yを含めて31文字まで対応しています。

R シリーズについては Y###- で示される ID が大きさの違う R シリーズ間でも重複しないようにしてください。

- カスタムフェーダーバンクの設定は、ユーザー設定に含まれているだけでなく、V2.0 からシーンデータにも含まれています。ログインしているユーザーや、読み込んだデータのタイプやバージョンによって、呼び出されるカスタムフェーダーバンク設定が異なりますので、以下の点にご注意ください。

ALL タイプのコンソールデータを Administrator でロードすると、セーブされていた Administrator のカスタムフェーダーバンク設定が呼び出されます。Guest や他のユーザーで ALL データをロードすると、セーブされていたカレントシーンのカスタムフェーダーバンク設定が呼び出されます。

V1.70 以前で保存した ALL データをロードした場合、シーンにはカスタムフェーダーバンク設定が含まれていないため、ロードしたときのカレントシーンのカスタムフェーダーバンク設定がすべてのシーンに適用されます。したがってこの場合は、ALL データをロードする前にユーザーを切り替えたりしてカスタムフェーダーバンクを希望する設定にしておくか、カスタムフェーダーバンクにリコールセーブをかけておくことをおすすめします。

- CL V2.0, V3.0, V4.0, QL V3.0, V4.0 ファームウェア対応のファイルコンバーター V3.0.0 を準備しています。

V3.10

1 台の RSio64-D は、最大 2 台の CL/QL/R Remote からリモートコントロールできます。

1 台の RMio64-D は、最大 6 台の CL/QL/R Remote からリモートコントロールできます。

1 台の Rio/Ri/Ro は、R Remote が動作している最大 2 台のコンピューターからリモートコントロールできます。
また別途 4 台の CL/QL からリモートコントロールできます。

V3.10 の新機能

- RSio64-D のコントロールに対応しました。
- 対応するサードパーティー製機器の HA(ヘッドアンプ)をコンソールからリモートコントロールできるようになりました。
- カスケード接続に関する機能を追加しました。
- モノラルタイプのインプットチャンネルのパン設定を CENTER NOMINAL、LR NOMINAL から選択できるようになりました。
- L-MONO、R-MONO、LR-MONO の入力信号処理の変更により、PAN モードや PAN ノブの設定が適切に切り替わるようになりました。
詳しくは [CL5/CL3/CL1V3.10 追補マニュアル](#)をご参照ください。

改善点

- USB メモリーを使って Dante ファームウェアをアップデートできるようになりました。
CL と QL のアップデート用ファイルを同一名(*「C-MD1.BIN」)から別名に変更しました。これにより、誤ったファイルでのアップデートを防ぎます。
- USB メモリーを認識しないときに手動でリマウントできるようになりました。

修正した不具合

- レベル差がある奇数/偶数の MIX バスや MATRIX バスをリンクしてステレオバスとして使用する場合、リンクしたときに同じレベルにならない不具合を修正しました。
- カレントシーンに GPI OUT を設定していると、PREVIEW モードでシーンをリコールしたときに GPI が動作してしまう不具合を修正しました。
- シーンをストアした後でそのシーンに GPI OUT を設定すると、ライブラリーをリコールしたときにも GPI OUT が出力されてしまう不具合を修正しました。

- NUAGE Workgroup Manager のメンバーになっている RMio64-D が CL から操作できるように見えてしまう不具合を修正しました。(実際には、NUAGE Workgroup Manager のメンバーになっている間、CL から操作できません。)

既知の不具合

- Dante Controller で CL シリーズに DVS(Dante Virtual Soundcard)をパッチしている状態で CL シリーズを再起動してもパッチが再現されないことがあります。その場合は Dante Controller で DVS を再度パッチしてください。なお、Windows 版の 3.2.0 より前の DVS では、41CH 以降のパッチが CL シリーズからできません。
- Dante PRIMARY/SECONDARY 端子に Dante 機器をつながない状態で、Dante オーディオネットワークの SECONDARY PORT 設定(REDUNDANT/DAISY CHAIN)を切り替えると、音声信号が送出されなくなります。Dante 機器をつなぐか、CL シリーズの再起動で送出されるようになります。
- V1.15 までのバージョンで作成されたファイルをロードすると、接続していた R シリーズ以外の Dante 機器のマウント情報を引き継ぎません。DANTE INPUT PATCH LIBRARY をリコールしても同様です。必要に応じて V1.51 以降でマウントやパッチ、DANTE INPUT PATCH Library を設定しなおしてください。

お知らせ

- Dante Controller でレイテンシーを設定する場合は、送信機器と受信機器で大きい(遅い)方の設定が有効になります。
- 以下のデバイ斯拉ベルは SUPPORTED DEVICE として認識するために使用します。

Y###-*****

は 0 ~ 9、A ~ F(大文字)の 16 進数 3 桁(000 ~ FFF)

* は任意の文字(英字(大文字 または小文字)、数字、-(ハイフン)が使用可)

Y を含めて 31 文字まで対応しています。

R シリーズについては Y###-で示される ID が大きさの違う R シリーズ間でも重複しないようにしてください。

- カスタムフェーダーバンクの設定は、ユーザー設定に含まれているだけでなく、V2.0 からシーンデータにも含まれています。ログインしているユーザーや、読み込んだデータのタイプやバージョンによって、呼び出されるカスタムフェーダーバンク設定が異なりますので、以下の点にご注意ください。

ALL タイプのコンソールデータを Administrator でロードすると、セーブされていた Administrator のカスタムフェーダーバンク設定が呼び出されます。Guest や他のユーザーで ALL データをロードすると、セーブされていたカレントシーンのカスタムフェーダーバンク設定が呼び出されます。

V1.70 以前で保存した ALL データをロードした場合、シーンにはカスタムフェーダーバンク設定が含まれていないため、ロードしたときのカレントシーンのカスタムフェーダーバンク設定がすべてのシーンに適用されます。したがってこの場合は、ALL データをロードする前にユーザーを切り替えたりしてカスタムフェーダーバンクを希望する設定にしておくか、カスタムフェーダーバンクにリコールセーフをかけておくことをおすすめします。

- CL V2.00, V3.00, V3.10, QL V3.00, V3.10 ファームウェア対応のファイルコンバーターV3.0.0 を準備しています。

V3.01 V3.02

V3 の新機能

- 5.1 サラウンドパンニングに対応しました。
- サラウンドミキシングに加え、シンプルなサラウンドモニタリング機能を搭載しました。
- Dan Dugan オートマチックミキサーを搭載しました。
- プレミアムラックに定番のバスコンプレッサー(Buss Comp 369)を追加しました。
- Frame Delay 機能が追加され、DELAY SCALE 画面でフレームが選べるようになりました。
- GEQ RACK / EFFECT RACK で 8 バンド PEQ が選択できるようになりました。
- EQ チューニングをサポートするリアルタイムアナライザー(RTA)を搭載しました。
- USER DEFINED キーに 4 つのバンクを導入しました。
- リコールセーフ、フォーカスリコール、グローバルペーストの設定項目に DCA が追加されました。
- User Defined Knobs からのエフェクトパラメーターコントロールに対応しました。
- RMio64-D のコントロールに対応しました。
- チャンネルリンクの設定がアウトプット側でも行えるようになりました。

- 内蔵オシレーター の ODD/EVEN で異なる周波数のサイン波を設定できるようになりました。
- ステレオ入力チャンネルに入力された信号をワンアクションでモノラル変換できるようになりました。
- SENDS ON FADER 時に METER 画面で全チャンネルのセンド量が確認できるようになりました。
- Dante Controller を使わずに、タッチスクリーンから Preferred Master 設定が行えるようになりました。
- ユーザーレベル設定のパラメーターとして DANTE SETUP を追加しました。
- Dante ネットワークが SECONDARY に変わったときに、タッチスクリーンのステータスインジケーターに表示されるようになりました。
- Fader Cue Release 機能が追加されました。
- タップテンポ ポップアップ画面にディレイ値が表示されるようになりました。
- DCA グループのミュート対象を一時解除できるようになりました。
- USER DEFINED キー、USER DEFINED ノブと MIDI のコントロールチェンジに割り当てできる機能が追加されました。
- CL シリーズで検出/パッチできる Dante 機器として、Focusrite RED NET4、RED NET MP8R を追加しました。

詳しくは [CL5/CL3/CL1 リファレンスマニュアル](#)をご参照ください。

[ヘルプファイル](#) が V3 になりました。ヤマハプロオーディオウェブサイトからダウンロードしてお使いください。

改善点

- V2 で Dante オーディオネットワーク設定も含めて初期化およびファームウェアアップデートしたときに、Preferred Master の設定がオンになるようにしました。また、この設定がコンソール本体の設定変更や再起動では変わらないようにしました。この初期設定により、CL や QL のワードクロック設定を Dante 以外に変更した場合、そのコンソールが優先的に Dante ネットワークのクロックマスターとなりクロック同期エラーを防ぐことができます。また、常時起動させる機器の Preferred Master のみをオン(他をすべてオフ)にして、マスターを明示的に指定することもできます。

修正した不具合(V3.02)

- DCA グループでミュートしたときに、同じチャンネルを MUTE グループやチャンネルでミュートしている場合、MUTE グループおよびチャンネルミュートが無効になる不具合を修正しました。

- シーンリコール時に、リコールセーフをかけたフェーダーを操作すると、フェーダー操作が無視されてフェーダー値と位置が合わなくなることがある不具合を修正しました。
- フェーダー値が-132dB になっているモノラル チャンネルにチャンネルライブラリーをリコールすると、そのチャンネルのパンがバランスとして動作してしまう不具合を修正しました。

修正した不具合 (V3.01)

- GEQ 9-16 Rack で 31BandGEQ または 8BandPEQ をマウントして EQ 調整後に、再起動または WORD CLOCK 設定の変更を行なうと、フラットに戻ってしまう不具合を修正しました。画面上では EQ 設定が正しく表示されますが、音声処理がフラットになっていました。
- 起動時にコンソールの Dante ポートからのオーディオ出力にパルス性のノイズが発生することがある不具合を修正しました。
- USER SETUP の GAIN KNOB FUNCTION を DIGITAL GAIN に設定している場合に、シーンのストアリコール、USER DEFINED キーのバンク切り替え、コンソールの再起動などを行うと ANALOG GAIN に戻ってしまう不具合を修正しました。

修正した不具合 (V3.00)

- ごくまれに_Kernel_sysdwn()と表示され、システムダウンしてしまう不具合を修正しました。
- R シリーズ 16 台以上と Dante-MY16-AUD が同じ Dante ネットワークにいるときや、4 台のコンソールから 3 台以上の R シリーズをすべて相互マウントしているときに、"No Response from I/O DEVICE." や"No Response from External HA."が表示される不具合を修正しました。
- ステレオインプットチャンネルの片方(ST IN L または ST IN R)のみパッチしたときに、HA コントロールが制限される不具合を修正しました。
- 複数台の CL/QL シリーズから HA をリモートしたときに、WITH RECALL を設定していない CL/QL シリーズでは操作した値が戻されて、AG->DG LINK が正常に機能しない不具合を修正しました。
- 複数チャンネルでチャンネルリンクを組んだときに、Dynamics1 および 2 で THRESHOLD 以外のパラメーターが正常に機能しない不具合を修正しました。
- 初期状態でパッチされていない MY スロットに信号が出力されている不具合を修正しました。
- (CL5 のみ)CH65~72 にインサート 2 の出力ポートを設定したときに、インサート 1 のエフェクトが無効になる不具合を修正しました。

- GPI IN にシーンをストアする機能を割り当てたときに、SCENE STORE ポップアップ画面でタイトルを入力する操作がタッチスクリーンでしかできない不具合を修正しました。
- GPI IN にヘルプ機能を割り当てたときに、ラッチ設定にしてもアンラッチとして動作していた不具合を修正しました。なお、GPI IN は画面上の操作子に対してヘルプを直接呼び出すことができません。
- レコーダーでソングを削除してもソングファイルリストから消えない不具合を修正しました。

既知の不具合

- Dante Controller で CL シリーズに DVS(Dante Virtual Soundcard)をパッチしている状態で CL シリーズを再起動してもパッチが再現されないことがあります。その場合は Dante Controller で DVS を再度パッチしてください。なお、Windows 版の 3.2.0 より前の DVS では、41CH 以降のパッチが CL シリーズからできません。
- Dante PRIMARY/SECONDARY 端子に Dante 機器をつながない状態で、Dante オーディオネットワークの SECONDARY PORT 設定(REDUNDANT/DAISY CHAIN)を切り替えると、音声信号が送出されなくなります。Dante 機器をつなぐか、CL シリーズの再起動で送出されるようになります。
- V1.15 までのバージョンで作成されたファイルをロードすると、接続していた R シリーズ以外の Dante 機器
のマウント情報を引き継ぎません。DANTE INPUT PATCH LIBRARY をリコールしても同様です。必要に応じて V1.51 以降でマウントやパッチ、DANTE INPUT PATCH Library を設定しなおしてください。
- コンソールに挿入した USB メモリーに再生可能なファイルがなく、レコーダー画面のソングリストに何も表示されていない場合は、StageMix の操作で録音を開始することができません。その場合は、コンソールの操作で一度録音するなどして再生ファイルを表示させてから、StageMix を操作してください。

お知らせ

- Dante Controller でレイテンシーを設定する場合は、送信機器と受信機器で大きい(遅い)方の設定が有効になります。
- 以下のデバイスラベルは SUPPORTED DEVICE として認識するために使用します。

Y###-*****

は 0 ~ 9、A ~ F(大文字)の 16 進数 3 桁(000 ~ FFF)

* は任意の文字(英字(大文字 または小文字)、数字、-(ハイフン)が使用可)

Yを含めて 31 文字まで対応しています。

R シリーズについては Y###- で示される ID が大ききの違う R シリーズ間でも重複しないようにしてください。

- カスタムフェーダーバンクの設定は、ユーザー設定に含まれているだけでなく、V2.0 からシーンデータにも

含まれています。ログインしているユーザーや、読み込んだデータのタイプやバージョンによって、呼び出されるカスタムフェーダーバンク設定が異なりますので、以下の点にご注意ください。

ALL タイプのコンソールデータを Administrator でロードすると、セーブされていた Administrator のカスタムフェーダーバンク設定が呼び出されます。Guest や他のユーザーで ALL データをロードすると、セーブされていたカレントシーンのカスタムフェーダーバンク設定が呼び出されます。

V1.70 以前で保存した ALL データをロードした場合、シーンにはカスタムフェーダーバンク設定が含まれていないため、ロードしたときのカレントシーンのカスタムフェーダーバンク設定がすべてのシーンに適用されます。したがってこの場合は、ALL データをロードする前にユーザーを切り替えたりしてカスタムフェーダーバンクを希望する設定にしておくか、カスタムフェーダーバンクにリコールセーフをかけておくことをおすすめします。

- CL V1.70, QL V1.01 ファームウェア対応のファイルコンバーター V2.3.0 で作成したファイルを CL V3.0 ファームウェアでも使用できます。なお、V3.0 の設定ファイルを他の機種へコンバートすることはできません。

V2.04

V2 での新機能

- USER DEFINED ノブに割り当てた TOUCH AND TURN 機能を用いて、SELECTED CHANNEL VIEW 画面にある FADER フィールドのフェーダーを操作できるようになりました。
- 1 つのチャンネルやバスに 2 つのデバイスを挿入できるようになりました。
- ゲインコンペンセーション有効時、アナログゲインの操作にデジタルゲインをリンクさせることができるようになりました。
- DCA グループに割り当てられたチャンネル群をフェーダーバンクに一括呼び出しできるようになりました。
- Stereo/Mono バスマスター、Mix バスマスターおよび Matrix バスマスターを DCA グループに割り当てることができるようになりました。

- ミュートグループでミュート中に一時解除ができるようになりました。
- チャンネルリンクされているチャンネルにおいて、リコールセーフの対象パラメーターが連動するようになりました。
- MIX/MATRIX バスに送られる信号から特定チャンネルの信号だけを抜くミックスマイナス機能に対応しました。
- 読み出し専用のシーンメモリーを作成できるようになりました。
- GEQ の操作にて、調整前後のゲイン値を比較できるようになりました。
- チャンネルネームディスプレイに Dynamics1 および 2 のゲインリダクションメーターなどが表示できるようになりました。
- Yamaha Console Extension V2 に対応しました。
- GPI OUT で設定できる機能が追加されました。
- USER DEFINED キー、USER DEFINED ノブ、ASSIGNABLE ENCODER(GAIN/PAN/ASSIGN ノブ) に割り当てができる機能が追加されました。
- Dante のレイテンシー2.0msec に対応しました。
- QL シリーズファームウェア V1.08 に対応しました。

詳しくは CL Firmware V2.00 追補マニュアルをご参照ください。

V2 での改善点

- Ro8-D の SYNC、SYSTEM のインジケーターに対応しました。
- SELECTED CHANNEL VIEW 画面の 8ch ポップアップ画面が、[SEL]キーに対応して切り替わるようになりました。
- 本体を工場出荷時の状態に初期化したときに、CL や QL を複数台使用するシステムで初期設定のままでもワードクロック同期するように、ワードクロックの初期値を DANTE 48k としました。
- Dante オーディオネットワーク設定も含めて初期化およびファームウェアアップデートしたときに、Preferred Master の設定がオンになるようにしました。また、この設定がコンソール本体の設定変更や再起動では変わらないようにしました。必要に応じて Dante Controller でオフにすることができます。この初期設定により、CL や QL のワードクロック設定を Dante 以外に変更した場合、そのコンソールが優先的に Dante ネットワークのクロックマスターとなりクロック同期エラーを防ぐことができます。また、

常時起動させる機器の Preferred Master のみを Dante Controller でオン(他をすべてオフ)にして、マスターを明示的に指定することもできます。

V2.04 で修正した不具合

- V2.03 ファームウェアにて、STEREO MASTER チャンネルのポストフェーダーにインサートされているときに、MATRIX バスに信号が送られない不具合を修正しました。
- エフェクトタイプとして M.BAND DYNA. または M.BAND COMP. が選ばれているときに、パラメーター TOTAL を設定するノブを押しながら回して 0.1dB 単位で変更しても、出力信号が 1dB 単位で変化する不具合を修正しました。
- V2.03 ファームウェアにて、ALL DATA や USER KEY をロードしたときに、USER DEFINED キーの DCA ROLL-OUT および FADER BANK SNAPSHOT、USER DEFINED ノブの OUTPUT LEVEL および RECORDER の設定が反映されない不具合を修正しました。
- (CL3 のみ)V2.03 ファームウェアにて、チャンネルカラーを調整するキャリブレーションを行ったときに、CH1~8 のチャンネルカラーインジケーターが点灯しない不具合を修正しました。
- V2.03 ファームウェアにて、C-MD1.BIN ファイルによるアップデートが必要なときに、ポップアップ画面が正常に表示されない不具合を修正しました。
- リコールセーフを設定しているチャンネルのフェーダーを操作中に、シーンリコールすると、フェーダー位置にずれが生じることがある不具合を修正しました。

既知の不具合

- Dante Controller で CL シリーズに DVS(Dante Virtual Soundcard)をパッチしている状態で CL シリーズを再起動してもパッチが再現されないことがあります。その場合は Dante Controller で DVS を再度パッチしてください。なお、Windows 版の 3.2.0 より前の DVS では、41CH 以降のパッチが CL シリーズからできません。
- Dante PRIMARY/SECONDARY 端子に Dante 機器をつながない状態で、Dante オーディオネットワークの SECONDARY PORT 設定 (REDUNDANT/DAISY CHAIN)を切り替えると、音声信号が送出されなくなります。Dante 機器をつなぐか、CL シリーズの再起動で送出されるようになります。
- V1.15 までのバージョンで作成されたファイルをロードすると、接続していた R シリーズ以外の Dante 機器のマウント情報を引き継ぎません。DANTE INPUT PATCH LIBRARY をリコールしても同様です。必要に応じて V1.51 以降でマウントやパッチ、DANTE INPUT PATCH Library を設定しなおしてください。

お知らせ

- Dante Controller でレイテンシーを設定する場合は、送信機器と受信機器で大きい(遅い)方の設定が有効になります。
- 以下のデバイラベルは SUPPORTED DEVICE として認識するために使用します。

Y###.*****

は 0 ~ 9、A ~ F(大文字) の 16 進数 3 桁(000 ~ FFF)

* は任意の文字(英字(大文字 または小文字)、数字、-(ハイフン) が使用可)

Yを含めて 31 文字まで対応しています。

R シリーズについては Y###-で示される ID が大きさの違うRシリーズ間でも重複しないようにしてください。

- CL V1.70 ファームウェア対応のファイルコンバーターV2.3.0 が、CL V2.04 ファームウェアでも使用できます。

V2.03

新機能

- USER DEFINED ノブに割り当てた TOUCH AND TURN 機能を用いて、SELECTED CHANNEL VIEW 画面にある FADER フィールドのフェーダーを操作できるようになりました。
- 1 つのチャンネルやバスに 2 つのデバイスを挿入できるようになりました。
- ゲインコンペンセーション有効時、アナログゲインの操作にデジタルゲインをリンクさせることができるようになりました。
- DCA グループに割り当てられたチャンネル群をフェーダーバンクに一括呼び出しできるようになりました。
- Stereo/Mono バスマスター、Mix バスマスターおよび Matrix バスマスターを DCA グループに割り当てることができるようになりました。
- ミュートグループでミュート中に一時解除ができるようになりました。

- チャンネルリンクされているチャンネルにおいて、リコールセーフの対象パラメーターが連動するようになりました。
- MIX/MATRIX バスに送られる信号から特定チャンネルの信号だけを抜くミックスマイナス機能に対応しました。
- 読み出し専用のシーンメモリーを作成できるようになりました。
- GEQ の操作にて、ゲイン値を変えたときに調整前後の音の違いを比較できるようになりました。
- チャンネルネームディスプレイに Dynamics1 および 2 のゲインリダクションメーターなどが表示できるようになりました。
- Yamaha Console Extension V2.0 に対応しました。
- GPI OUT で設定できる機能が追加されました。
- USER DEFINED キー、USER DEFINED ノブ、ASSIGNABLE ENCODER(GAIN/PAN/ASSIGN ノブ) に割り当てができる機能が追加されました。
- Dante のレイテンシー2.0msec に対応しました。
- QL シリーズファームウェア V1.07 に対応しました。

詳しくは CL Firmware V2.0 追補マニュアルをご参照ください。

改善点

- Ro8-D の SYNC、SYSTEM のインジケーターに対応しました。
- SELECTED CHANNEL VIEW 画面の 8ch ポップアップ画面が、[SEL]キーに対応して切り替わるようになりました。
- 本体を工場出荷時の状態に初期化したときに、CL や QL を複数台使用するシステムで初期設定のままでもワードクロック同期するように、ワードクロックの初期値を DANTE 48k としました。
- Dante オーディオネットワーク設定も含めて初期化およびファームウェアアップデートしたときに、Preferred Master の設定がオンになるようにしました。また、この設定がコンソール本体の設定変更や再起動では変わらないようにしました。必要に応じて Dante Controller でオフにすることができます。この初期設定により、CL や QL のワードクロック設定を Dante 以外に変更した場合、そのコンソールが優先的に Dante ネットワークのクロックマスターとなりクロック同期エラーを防ぐことができます。また、

常時起動させる機器の Preferred Master のみを Dante Controller でオン(他をすべてオフ)にして、マスターを明示的に指定することもできます。

修正した不具合

- Dante の SECONDARY PORT 設定を切り替えても、設定が切り替わらないことがある不具合を修正しました。
- ゲストでログインしたときに、USER LEVEL ページの CH OPERATION や USER DEFINED キーに割り当てた RECORDER の DIRECT PLAY が正しく設定されないことがある不具合を修正しました。
- リンクグループのリンクパラメーターの変更が別のグループにも適用されてしまう不具合を修正しました。
- グローバルペーストにて、ゲインコンペンセーションがオンからオフになるようペーストしたときに、ゲインの設定値が正しくペーストされない不具合を修正しました。
- OUTPUT PORT ポップアップ画面にて、出力できないパッチ (OMNI OUT に CASCADE OUTPUT を出力) が選択できてしまう不具合を修正しました。
- シーンをリコールしたとき、PORT SELECT ポップアップ画面の SLOT3 のパッチが見えなくなることがある不具合を修正しました。
- USER LEVEL ページの MIXER SETUP を OFF にしていると外部から DANTE PATCH を変えたときに、R Series の HA REMOTE が機能しない不具合を修正しました。

既知の不具合

- Dante Controller で CL シリーズに DVS(Dante Virtual Soundcard)をパッチしている状態で CL シリーズを再起動してもパッチが再現されないことがあります。その場合は Dante Controller で DVS を再度パッチしてください。なお、Windows 版の 3.2.0 より前の DVS では、41CH 以降のパッチが CL シリーズからできません。
- Dante PRIMARY/SECONDARY 端子に Dante 機器をつながない状態で REDUNDANT/DAISY CHAIN の設定を切り替えると、音声信号が送出されなくなります。Dante 機器をつなぐか、CL シリーズの再起動で送出されるようになります。
- V1.15 までのバージョンで作成されたファイルをロードすると、接続していた Rio 以外の Dante 機器のマウント情報を引き継ぎません。DANTE INPUT PATCH LIBRARY をリコールしても同様です。必要に応じて V1.51 以降でマウントやパッチ、DANTE INPUT PATCH Library を設定しなおしてください。

お知らせ

- Dante Controller でレイテンシーを設定する場合は、送信機器と受信機器で大きい(遅い)方の設定が有効になります。
- 以下のデバイラベルは SUPPORTED DEVICE として認識するために使用します。

Y###-*****

は 0 ~ 9、A ~ F(大文字)の16進数3桁(000 ~ FFF)

* は任意の文字(英字(大文字または小文字)、数字、-(ハイフン)が使用可)

Yを含めて31文字まで対応しています。

Rシリーズについては Y###-で示されるIDがRシリーズ間で重複しないようにしてください。

- CL V1.70 ファームウェア対応のファイルコンバーターV2.3.0が、CL V2.03 ファームウェアでも使用できます。

V1.70

新機能

- CLシリーズの設定データをUSBメモリーから個別にセーブ/ロードできるようになりました。
- インпутパッチ変更時のHA設定で、パッチしたポートの設定をそのまま使うか、チャンネルの設定をポートにコピーするかを選択できる機能を追加しました。
- DCAグループのミュート対象として、インプット系チャンネルからセンドポイントをPREに設定しているバスへの送りを設定できるようになりました。
- METER画面のメーターポイントを追加しました。
- SENDS ON FADERモードのときのGAIN/PAN/ASSIGNノブ(アサインブルエンコーダー)に機能を追加しました。
- SELECTED CHANNEL VIEW画面のGAIN/PATCHフィールドに、HAのアナログゲインとデジタルゲインの両方が常に表示されるようになりました。

- SELECTED CHANNEL VIEW 画面の GAIN/PATCH フィールドに、R シリーズなど外部 HA の HPF の状態が表示されるようになりました。
- カスタムフェーダーバンクの設定をシーン別にストア/リコールできる機能を追加しました。
- チャンネルカラーに黒を追加しました。
- SENDS ON FADER モード時に、チャンネルディスプレイでチャンネルのオン/オフを表示するようになりました。
- GPI IN ポートに接続する外部スイッチの属性(ラッチ/アンラッチ)を選択できるようになりました。
- Dante オーディオネットワークにエラーが起きたときに、Dante に関する設定を初期化できるようになりました。
- DCA/MUTE GROUP ASSIGN MODE ポップアップ画面で、ミュートグループの名前が付けられるようになりました。また、DCA グループ名とミュートグループ名をこのポップアップ画面で表示するようになりました。
- CL シリーズで検出/パッチできる Dante 機器として、Aviom D800-Dante を追加しました。詳しくは [CL Firmware V1.70 追補マニュアル](#)をご参照ください。

改善点

- DANTE の DEVICE LABEL の制限が緩和されました。
- CL で ST IN の PAN MODE を PAN にしたときの初期値を、CENTER から LR 振り切りに変更しました。
- OVERVIEW 画面の DCA メンバー表示において、15 以上のチャンネルが登録されているときに、Centralogic セクションのマルチファンクションノブを使用してチャンネルをスクロールできるようになりました。
- CH LINK MODE ポップアップ画面にリンクインジケータを追加して、現在設定しているリンクグループが判別しやすくなりました。
- キューのモニターレベルで設定できる範囲が、-30dB ~ +20dB にひろがりました。
- EFFECT ポップアップ画面、GEQ ポップアップ画面、PREMIUM RACK ポップアップ画面で、[SEL] キーでチャンネルの切り替えができるようになりました。
- USER DEFINED キーに TAP TEMPO を設定した場合、そのキーを押して BPM (テンポの値) を設定すると、ポップアップ画面で BPM 値が表示されるようになりました。

修正した不具合

- GPI IN ACTIVE IND.が正しく機能していない不具合を修正しました。
- RECALL SAFE、FOCUS RECALL、GLOBAL PASTE でバスの Stereo/Mono の切り替えをして、再度切り替えをすると、Mix や Matrix の Balance の値が制限されることがあった不具合を修正しました。
- CH MOVE を実行すると、ST IN の MATRIX の PAN の値がおかしくなる不具合を修正しました。
- STEREO バスで Post On インサートのオン/オフ設定が、MATRIX SEND2-8 へ正しく反映されないことがある不具合を修正しました。
- DANTE 機器の電源を入れたときや PATCH を大きく変えたときに、“DANTE RESOURCE OVER FLOW” のワーニングメッセージが不適切に表示されることがある不具合を修正しました。
- CL/R シリーズで DANTE の LATENCY が実機での設定と食い違って、1.0ms 以下にならない不具合を修正しました。
- I/O DEVICE 画面の Rio フィールドに表示されるエラーメッセージ(SYSTEMインジケータが点滅または点灯)が警告メッセージ(SYNC インジケータが点滅または点灯)に切り替わったときに、SYSTEM インジケータが消灯しない不具合を修正しました。

既知の不具合

- Dante Controller で CL に DVS(Dante Virtual Soundcard)をパッチしている状態で CL を再起動してもパッチが再現されないことがあります。その場合は Dante Controller で DVS を再度パッチしてください。なお、Windows 版の 3.2.0 より前の DVS では、41CH 以降のパッチが CL からできません。
- Dante PRIMARY/SECONDARY 端子に Dante 機器をつながない状態で REDUNDANT/DAISY CHAIN の設定を切り替えると、音声信号が送出されなくなります。Dante 機器をつなぐか、CL の再起動で送出されるようになります。
- V1.15 までのバージョンで作成されたファイルをロードすると、接続していた Rio 以外の Dante 機器のマウント情報を引き継ぎません。DANTE INPUT PATCH LIBRARY をリコールしても同様です。必要に応じて V1.51 以降でマウントやパッチ、DANTE INPUT PATCH Library を設定しなおしてください。
- 一部のネットワークスイッチで、CL シリーズなどの Dante 機器が正常に 1Gbps でリンクしないことがあります。これはネットワークスイッチが起動時に行なう自己診断機能などに起因します。各機器のリンク速度は

Dante Controller の Device Status 画面にある Link Speed で確認できます。10 または 100Mbps と表示されていた場合は、該当機器のネットワークケーブルを抜き差しすることで 1Gbps でリンクするようになります。1G かどうか CL や R シリーズの DANTE の 1G の LED でも確認できます。この問題を回避するためには、Dante 機器より先にネットワークスイッチが起動するようにしてください。

アップデートする場合は、“CL5/CL3/CL1 ファームウェアアップデートガイド”にしたがってアップデートしてください。

お知らせ

- Dante Controller でレイテンシーを設定する場合は、送信機器と受信機器で大きい(遅い)方の設定が有効になります。
- 以下のデバイスは SUPPORTED DEVICE として認識するために使用します。

Y###-*****

は 0 ~ 9、A ~ F(大文字) の 16 進数 3 桁(000 ~ FFF)

* は任意の文字(英字(大文字または小文字)、数字、-(ハイフン)が使用可)

Y を含めて 31 文字まで対応しています。

R シリーズについては Y###-で示される ID が大きさの違う R シリーズ間でも重複しないようにしてください。

- CL V1.70 では、現在 NXAMP(NXDT104)を NXAMP として認識してマウントすることができません。CL の DEVICE LIST に UNSUPPORTED として表示されますが、I/O 数を設定してマウントすることで CL からパッチすることができます。

V1.61

新機能

- CL シリーズで検出/パッチできる Dante 機器として、Shure ULX-D デジタルワイヤレスシステムとヤマハ XMV8280-D/XMV8140-D を追加しました。

ULX-D を本機能に対応しているバージョンにアップデートしてください。詳細は Shure のウェブサイトでご確認ください。

- CL シリーズおよび Ro-8D を除く R シリーズの機器の状態や Dante の状態を CL シリーズで確認できるようになりました。
- R シリーズの状態をコンソールから確認するには、DANTE SETUP で REMOTE HA にアサインしている必要があります。

改善点

- USB 端子に過電流が発生したため USB 機器が切断されても、再起動しないで USB 機器が再接続できるようになりました。
- CL シリーズや R シリーズのアナログ入力端子に接続した機器(コンデンサーマイクやダイレクトボックス)にファンタム電源(+48V)を供給している CL シリーズからゲインを調節した場合、機器によっては、HA 内部の PAD がオン/オフされるポイント(+17dB と+18dB の間)でノイズが発生することがある問題を改善しました。
- SCENE RECALL 時などにおける HA の応答時間を改善しました。

修正した不具合

- V1.60 で発生していた、長時間経過後に、CL シリーズや Dante-MY16-AUD から R シリーズの HA ゲインの一部がコントロールできなくなる不具合を修正しました。V1.60 は Web サイトから取り下げました。
- V1.60 以前で、まれに CL シリーズの Dante 経由の音声 が 15 秒程度途切れることがある不具合を修正しました。
- 日付と時刻の設定に TOUCH AND TURN 機能を用いた場合、反映されない不具合を修正しました。
- CUE の SPECIFIC CH を USER DEFINED キーに割り当てた場合、キーを押しても USER DEFINED キーの LED が点灯しない不具合を修正しました。
- FADE TIME を設定したシーンをリコールした際に、StageMix(iPad アプリ)の動作が遅くなる不具合を修正しました。

既知の不具合

- Dante Controller で CL に DVS(Dante Virtual Soundcard)をパッチしている状態で CL を再起動してもパッチが再現されないことがあります。その場合は Dante Controller で DVS を再度パッチしてください。なお、Windows 版の 3.2.0 より前の DVS では、41CH 以降のパッチが CL からできません。

- Dante PRIMARY/SECONDARY 端子に Dante 機器をつながない状態で REDUNDANT/DAISY CHAIN の設定を切り替えると、音声信号が送出されなくなります。Dante 機器をつなぐか、CL の再起動で送出されるようになります。
- V1.15 までのバージョンで作成されたファイルをロードすると、接続していた Rio 以外の Dante 機器のマウント情報を引き継ぎません。DANTE INPUT PATCH LIBRARY をリコールしても同様です。必要に応じて V1.51 でマウントやパッチ、DANTE INPUT PATCH Library を設定しなおしてください。
- 一部のネットワークスイッチで、CL シリーズなどの Dante 機器が正常に 1Gbps でリンクしないことがあります。これはネットワークスイッチが起動時に行なう自己診断機能などに起因します。各機器のリンク速度は Dante Controller の Device Status 画面にある Link Speed で確認できます。10 または 100Mbps と表示されていた場合は、該当機器のネットワークケーブルを抜き差しすることで 1Gbps でリンクするようになります。この問題を回避するためには、Dante 機器より先にネットワークスイッチが起動するようにしてください。
* V1.51 からアップデートする場合は、MAIN 及び SUB のファームウェアをアップデートしてください。MAIN 及び SUB のファームウェアをアップデートするためには、「CL5/CL3/CL1 ファームウェアアップデートガイド」の「CL 本体のファームウェアのアップデート」の作業を実施してください。V1.15 以前のバージョンからアップデートする場合は、「CL5/CL3/CL1 ファームウェアアップデートガイド」にしたがってアップデートしてください。

お知らせ

- Dante Controller でレイテンシーを設定する場合は、送信機器と受信機器で大きい(遅い)方の設定が有効になります。
- デバイスラベルの以下の*****以外は変更しないようにしてください。*****以外の部分は CL シリーズからのデバイス認識に使用しています。

Y###-“メーカー名”-“モデル名”*****

は 0 ~ 9、A ~ F(大文字)の 16 進数 3 桁(000 ~ FFF)

* は任意の文字 (英字(大文字 又は小文字)、数字、-(ハイフン) が使用可)

- Dante-MY16-AUD カード、 DANTE ACCELERATOR カード は、デバイスラベルを以下のように付けることで SUPPORTED DEVICE として認識します。

Dante-MY16-AUD: Y###-Audinate-DANTE-MY16*****

DANTE ACCELERATOR: Y###-Yamaha-DANTE-ACCEL*****

は 0 ~ 9、A ~ F(大文字)の 16 進数 3 桁(000 ~ FFF)

* は任意の文字 (英字(大文字 又は小文字)、数字、-(ハイフン)が使用可)

V1.60

[重要なお知らせ]

ファームウェア V1.60 で、長時間経過後に、R シリーズの HA ゲインの一部がコントロールできなくなる不具合が確認されました。(Dante-MY16-AUD で R シリーズをご使用の場合も同様となります)

ファームウェア V1.61 でこの重大な不具合を修正いたしましたので、CL/R シリーズともに V1.61 をご使用くださいますようお願いいたします。

V1.51

新機能

- シーンのプレビュー機能に対応しました。
- ヘルプ機能に対応しました。
- CL シリーズで検出/パッチできる Dante 機器として Ri8-D、Ro8-D、NXAMP with NXDT104 などを追加しました。
- CUE ポップアップ画面に CUE LEVEL ノブを追加して、キューのレベルを変更できるようにしました。
- HPF/EQ ポップアップ画面(1ch)に HPF タイプ切り替えボタンを追加して、減衰量を-12dB/oct または-6dB/oct に切り替えられるようにしました。

改善点

- DANTE SETUP 画面を改善しました。

- I/O DEVICE 画面を追加して、接続する Dante 機器の設定を VIRTUAL RACK 画面から分離しました。
- ID#1 以外の CL でも Nuendo Live と連携できるようになりました。

修正した不具合

- 一つのネットワークスイッチに Dante ネットワークと CL Editor 用のネットワークをつなげると、Dante ネットワークの音声にノイズが発生する不具合を修正しました。
- #1 から#8 の I/O ラックをアンマウントすると、#9 の I/O ラックに CONFLICT が表示される不具合を修正しました。
- SEND ON FADER モードの時に、異なるグループのキューに切り替えるとキューが解除されることがある不具合を修正しました。
- CL が二台以上ある環境でシーンのリコールを連続して行なうと、HA GAIN の設定がリコールされないことがある不具合を修正しました。
- Rio などの Dante 機器の DEVICE LABEL や UNIT ID を変更すると、"NETWORK AUDIO MODULE FAILED AND WAS RESTARTED."が表示されることがある不具合を修正しました。
- STEREO インプット系チャンネルのパラメーターを移動すると、PAN の設定値が正しく移動しない不具合を修正しました。
- STEREO アウトプット系チャンネルでインサートの設定を変更したあとキューポイントを変更しても、キューポイントの変更が反映されない不具合を修正しました。
- STEREO や MIX アウトプット系チャンネルをモニターソースにしたり、MIX アウトプット系チャンネルをキーイン信号に選択すると、インサートが反映されない不具合を修正しました。

V1.15

修正された不具合

下記の不具合を修正しました。

- Dante 機器のデバイ斯拉ベルを 6 文字未満に設定すると、CL で認識できなくなる。
- Dante Controller でチャンネルラベルを編集したときに、機器のネットワークモジュールの修理対応が必要となる場合がある。

- CL の電源立ち上げ時や、Dante ネットワークのワードクロック切り替え時に、音声が出ない場合がある。

V1.14

新機能

- チャンネルネームディスプレイの輝度と濃淡コントラストを調整するキャリブレーション機能を追加しました。

調整手順は以下となります。

輝度を調整する場合

1. パネル上の SCENE MEMORY [STORE]キーを押しながら、電源を入れます。
2. CHANNEL COLOR CALIBRATION ボタンを押します。
3. 輝度を調整したいチャンネルの[CUE]キーまたは[ON]キーを押します。

[CUE]キーを押すと輝度が上がり、[ON]キーを押すと輝度が下がります。

4. 調整が終わったら、画面右側の APPLY ボタンを押して、変更を確定します。
5. EXIT ボタンを押します。

通常モードで起動します。

濃淡コントラストを調整する場合:

1. パネル上の SCENE MEMORY [STORE]キーを押しながら、電源を入れます。
2. CHANNEL COLOR CALIBRATION ボタンを押します。
3. パネル上の[SEL]キーを押しながら、Centralogic セクションにあるチャンネル 1 のマルチファンクションノブを回します。
左に回すと全チャンネルのコントラストが薄くなり、右に回すと全チャンネルのコントラストが濃くなります。
4. 他とコントラストが異なるチャンネルを調整する場合、該当チャンネルの[SEL]キーを押しながら[CUE]キーまたは[ON]キーを押します。
[CUE]キーを押すとコントラストが薄くなり、[ON]キーを押すとコントラストが濃くなります。
5. 調整が終わったら、画面右側の APPLY ボタンを押して、変更を確定します。
6. EXIT ボタンを押します。

通常モードで起動します。

改善点

- チャンネルネームディスプレイの輝度の初期値を最大から中間に変更しました。

修正した不具合

- MY16-ES64、MY16-EX、MY16-MD64 で Native モードにしていると音が出ない不具合を修正しました。
- フェーダーをリコールセーフにした状態で USB メモリーから本体の設定をロードすると、フェーダーがロードした値の位置にならない不具合を修正しました。
- Gain Compensation(GC)がオンの状態で、GC がオフの INPUT CHANNEL LIBRARY をリコールすると、HA のアナログゲインが正しく反映されない不具合を修正しました。
- 本体に保存したユーザー認証キーを使って管理者やゲストから他のユーザーとしてログインして、ふたたび管理者やゲストにログインしなおしても権限が変化していない不具合を修正しました。
- LIBRARY LIST の操作に対して制限がかけられているユーザーでログインしていると、本体に保存してある他のユーザー認証キーでログインできない不具合を修正しました。
- 大規模な Dante ネットワークシステムでデバイスの発見やパッチの復元に時間がかかる問題を改善しました。

V1.12

修正した不具合

- コンソールで特定の操作をしたあとに、USB メモリーレコーダー機能で録音/再生をすると、まれにフリーズすることがある不具合を修正しました。

*V1.11 からアップデートする場合は、MAIN 部のファームウェアだけをアップデートしてください。MAIN 部のファームウェアをアップデートするためには、「CL5/CL3/CL1 ファームウェアアップデートガイド」の「CL 本体のファームウェアのアップデート」の作業を実施してください。手順 5 でコピーするファイルは MAIN 部のファームウェアである MCLP1_12.PGM です。V1.11 以外のバージョンからアップデートする場合は、「CL5/CL3/CL1 ファームウェアアップデートガイド」にしたがってアップデートしてください。

V1.11

新機能/仕様変更

- Nuendo Live に対応しました。
- GPI 機能が追加されました。
- 複数のユーザーキーを、本体内に保存できるようになりました。
- DANTE SETUP 画面が変更されました。
- オーディオネットワーク内で I/O ラックが新たに認識されたときやオーディオネットワークから外れたときに、ポップアップメッセージを表示するようになりました。
- 同時使用できる機器数の上限は下記のとおりとなりました。
 - オーディオネットワーク内に CL は 4 台、I/O ラックは 32 台まで
 - 1 台の CL で HA リモートができる I/O ラックは 8 台まで
 - 1 台の CL にパッチできる I/O ラックやその他の Dante 機器は 24 台まで

修正した不具合

- ごくまれにパネルがフリーズする不具合を修正しました。
- シーンメモリーをリコールしたときにゲインコンペンセーションの設定が食い違う不具合を修正しました。
- CL を Rio より先に起動すると、CL が Rio を認識しないことがある不具合を修正しました。
- Dante-MY16-AUD が Slave to External Word Clock に設定されている場合、起動時に Sync LED が緑色点灯にならない不具合を修正しました。
- CL の Dante 端子に Rio などの Dante 機器が接続されていない場合、ミュート状態になって音声が出なくなる不具合を修正しました。
- CL が二台以上ある環境での I/O RACK OUTPUT PATCH の以下の不具合を修正しました。
 - ファイルをロードするときに WITH DANTE SETUP AND I/O RACK ボタンをオンにしてロードしてもパッチが再現されないことがある。

- Dante-MY16-AUD を使用している場合、再起動したときに CL と Dante-MY16-AUD のパッチの再現に数分かかることがある不具合を修正しました。
- Dante Controller で CL に DVS(Dante Virtual Soundcard)をパッチしても、DANTE INPUT PATCH の LIBRARY にストア/リコールできない不具合を修正しました。
- CL と Rio が Dante オーディオネットワークでつながっているときに Dante Controller で Preset ファイルをロードしてパッチを変更すると、パッチの変更が完了しないことがある不具合を改善しました。
- CL と Rio が Dante オーディオネットワークでつながっているときにワードクロックまたはオーディオビットレートを変更すると、Rio がミュート状態になって音声が出なくなる不具合を改善しました。

V1.04

修正した不具合

- 特定のパネル操作で、パネルと画面がフリーズすることがある不具合を修正しました。
- その他の軽微な不具合を修正しました。

V1.03

修正された不具合

- 電源のオン/オフを短い間隔で切り替えると、チャンネルネームディスプレイが表示されない不具合を修正しました。

V1.02

初期リリースバージョン(プリインストール版)